

平成30年度

履修の手引き



岩手県立大学

岩手県立大学盛岡短期大学部

Morioka Junior College Iwate Prefectural University

目 次

★ 学 年 暦

★ ディプロマ・ポリシー カリキュラム・ポリシー

★ 用 語 集

I 盛岡短期大学部の概要

| | |
|----------------------|---|
| 1 生活科学科生活デザイン専攻..... | 1 |
| 2 生活科学科食物栄養学専攻..... | 2 |
| 3 国際文化学科..... | 3 |

II 履修

| | |
|----------------------|----|
| 1 はじめに..... | 7 |
| 2 大学における学修について..... | 8 |
| 3 授業..... | 10 |
| 4 履修登録..... | 12 |
| 5 試験..... | 14 |
| 6 成績評価..... | 16 |
| 7 卒業及び学位..... | 18 |
| 8 他学科（専攻）の履修..... | 18 |
| 9 岩手県立大学単位互換制度..... | 19 |
| 10 語学科目における単位認定..... | 21 |

III 授業科目一覧表

| | |
|---------------------|----|
| 1 生活科学科 | |
| ・ 共通科目（各専攻共通）..... | 25 |
| ・ 生活デザイン専攻専門科目..... | 26 |
| ・ 食物栄養学専攻専門科目..... | 28 |
| 2 国際文化学科..... | 31 |

IV 履修登録下書き表

平成30年度 学 年 暦

| | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 週 | 学 事 |
|--------|----|----|----|----|----|----|----|----------------------------|--|
| 4 月 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 1 2 3 | 1日 学年開始 前期開始 3日～6日 健康診断 4日 英語プレースメント・テスト 5日 入学式、オリエンテーション・在学生ガイダンス（～11日） 10日～18日 履修登録期間 (10日(pm)、11日(am))は履修登録制限科目のみの登録) 12日 前期授業開始 20日～23日 履修登録確認期間（24日履修登録確定） |
| | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | | |
| | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | | |
| | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | | |
| | 29 | 30 | | | | | | | |
| | 2 | 2 | 2 | 3 | 3 | | | | |
| 5 月 | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 4 5 6 7 8 | 12日 体育祭 14日～18日 履修取消期間 30日 月曜日授業（水曜日授業休講） |
| | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | | |
| | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | | |
| | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | | |
| | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | | | | |
| | 5 | 5 | 4 | 4 | 3 | | | | |
| 6 月 | | | | | | 1 | 2 | 8 9 10 11 12 | 16日 編入学試験（ソフト） 19日 開学20周年記念行事(休講) |
| | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | | |
| | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | | |
| | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | | |
| | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | | |
| | 4 | 3 | 4 | 4 | 5 | | | | |
| 7 月 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 13 14 15 16 17 | 1日 オープンキャンパス 6日 七夕祭 14日 大学院第1次入学者選抜（ソフト研究科） 大学院学内推薦選抜（社福研究科） |
| | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | | |
| | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | | |
| | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | | |
| | 29 | 30 | 31 | | | | | | |
| | 4 | 5 | 4 | 4 | 4 | | | | |
| 8 月 | | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 17 18 | 2～8日、9日pm 前期授業等調整期間 9日am 2年次「英語基礎演習」試験 10日～9月24日 夏季休業期間 13日～16日 全学一斉休業日（窓口閉鎖） 17日～23日 前期集中講義期間 24日～9月14日 学生センター時間短縮（～17:00） 25日～26日 電気設備定期点検による停電 |
| | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | | |
| | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | | |
| | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | | |
| | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | | | |
| | | | 1 | | | | | | |
| | 15 | 15 | 15 | 15 | 15 | | | | |
| 9 月 | | | | | | | 1 | 19 | 6日 編入学試験（看護、社福、総政） 11日～13日 A0入試2次選考（社福、ソフト、総政） 15日 大学院第1次入学者選抜（看護、社福、総政研究科） 21日 秋季学位記授与式、前期成績通知 25日～10月3日 後期履修登録期間 (25日(pm)、26日(am))は履修登録制限科目のみの登録 25日 秋季入学式 27日 後期授業開始 |
| | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | | |
| | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | | |
| | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | | |
| | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | | |
| 30 | | | | | | | | | |
| | | | | 1 | 1 | | | | |

注1 〔学期末試験〕は、各授業曜日末（15回）を目安としますが担当教員の指示に従ってください。

2 〔授業等調整期間〕とは、補講、補習及び試験に利用できる期間を言います。

3 〔集中講義〕は、原則として上記日程で行いますが、講師の都合により変更となる場合があります。

4 上記日程は変更になる場合もありますので、掲示等に注意してください。

5 : 授業日 : 学内立入制限日 : 授業等調整期間 : 集中講義期間 : 全学一斉休業日

盛岡短期大学部 ディプロマ・ポリシー

盛岡短期大学部では、本学の建学の理念、教育の特色、教育研究上の目的を踏まえ、教養教育と密接な関連を保ちながら専門の学芸を教授研究し、豊かな感性を身につけた有為な職能的社会人を育成するとともに、地域社会の発展、国際社会の発展に寄与できる人材の育成を図ります。これに基づき、

生活科学科生活デザイン専攻においては、

- 1 住環境と衣環境を融合した生活の実践能力と幅広い教養を身につけ、多様化する将来の生活を自ら考え構築できる人材
- 2 地域の環境・気候風土に根ざした適切な住居をデザインできる人材

生活科学科食物栄養学専攻においては、

- 1 食に関する科学の基礎から応用までを体系的に理解し、食生活を支える知識と技術を習得し、科学的思考や実践に対応できる力を身につけた人材
- 2 食生活をより良い方向へ支援する専門的知識や技術、実践能力を兼ね備えた、栄養士として社会に貢献できる人材

国際文化学科においては、

自他の文化を正しく理解した上で、他者と正しくコミュニケーションできる能力を備えた、豊かな人間性と国際感覚とを併せ持った、社会に価値ある人材、地域の国際化に貢献できる人材

の育成を図り、本学学則に定める卒業要件に必要な年数以上在学し且つ単位を修得した学生を、次に掲げる『学生が卒業までに身につけるべき能力』を備えたものとして、生活科学科にあっては学位『短期大学士（生活科学）』、国際文化学科にあっては学位『短期大学士（国際文化）』を授与します。

学生が卒業までに身につけるべき能力

<生活科学科>

【生活デザイン専攻】

- 1 人間－衣服－住居－地域の関わりを理解し、多様化する将来の生活を自ら考えて取り組むことができる。
- 2 地域の環境・気候風土に根ざした住居をデザインできる。
- 3 自然環境と社会環境に調和し、身体機能に適した衣生活を実践できる。

【食物栄養学専攻】

- 1 食に関する学問的知識を修得し、それを日常の生活において活かしていくことができる。
- 2 栄養士として必要な専門的知識や技術を身につけ、専門職として活躍できる。
- 3 問題解決のための能力や実践力を身につけ、食に関する分野において社会の発展に寄与できる。

<国際文化学科>

- 1 西洋・アジア及び日本の多様な文化や交流の歴史を幅広く理解し、これを尊重する豊かな国際感覚と良識をもつことができる。
- 2 自らが生活する地域とそれが持つ文化の諸相をより深く理解し、地域文化の振興や地域の国際化に積極的に寄与できる。
- 3 自立した社会人として、豊かで実践的なコミュニケーション能力を身につけ、主体的に考え発言できる。

盛岡短期大学部 カリキュラム・ポリシー

<生活科学科>

【生活デザイン専攻】

生活デザイン専攻では人間－衣服－住居－地域の関わりを理解し、多様化する将来の生活を自ら考えて取り組むことができる人材の育成をめざして2年間のカリキュラムを共通科目・基礎専門科目・専門科目の3つの科目群で構成しています。

1 共通科目

生活科学科の基幹となる科目であり、社会生活を送るうえで必要となる豊かな人間性と幅広い教養を身につけるとともに、さまざまな学問分野の学び方に触れ、それを専門分野の修学に応用できるように配慮しています。また、専門科目の理解に資する観点も加味し、人間、生活、文化、社会との関連性を重視するとともに、健康で豊かな人生を創造していくうえでの知識や技術を身につけ、心身の健康を養い、情報化の進展に対応した教育を行います。

2 基礎専門科目および専門科目

人間生活とそれを取り巻く生活環境としての住居（インテリア含む）と衣服とを総合的に理解するとともに、我々の生活自体が環境に及ぼす影響や今後の望ましい生活環境のあり方を考えるため、住居と衣服を中心とした科目、および地域社会や高齢社会を理解するための科目で構成しています。講義と演習、実験、実習を通じ、住居と衣服について科学的かつ多角的、総合的にとらえながら実生活に応用できる能力と技術を修得するための科目です。

また、住居に関わる科目を通して、二級建築士および木造建築士の受験に必要な知識と技術を学びます。

さらに、ゼミ形式で行われる「卒業研究」では、教員の専門研究領域に応じたテーマの研究を通して、計画力、問題解決能力、実践力などを培います。

3 実践科目

社会での実践運用に備え、ビジネス実務に関する科目が開講されています。

【食物栄養学専攻】

食物栄養学専攻のカリキュラムは、共通科目・基礎専門科目・専門科目の3つの科目群で構成されています。

1 共通科目

生活科学科の基幹となる科目であり、社会生活を送るうえで必要となる豊かな人間性と幅広い教養を身につけるとともに、さまざまな学問分野の学び方に触れ、それを専門分野の修学に応用できるように配慮しています。また、専門科目の理解に資する観点も加味し、人間、生活、文化、社会との関連性を重視するとともに、健康で豊かな人生を創造していくうえでの知識や技術を身につけ、心身の健康を養い、情報化の進展に対応した教育を行います。

2 基礎専門科目

現代人の食生活や環境について理解するための科目および生命と健康について学ぶ上で基礎となる科目で構成されています。専門科目を履修する前に必要な知識や考え方について学びます。

3 専門科目

専門科目は、栄養士の免許を取得するために必要な科目を中心に構成されています。おもに身体の構造や機能、食品の化学的性質を知り、食品に含まれる栄養素の働きなどを学び、「食による生活習慣病」を予防し、ライフステージや病態にそった栄養管理ができる能力と技術を修得するための科目です。

また、栄養学の基礎や応用、栄養教育、特定給食施設の管理・運営などの講義や実習を通して、栄養士の業務に関わる知識と技術について学びます。

さらに、ゼミ形式で行われる「卒業研究」では、教員の専門研究領域に応じたテーマの研究を通して、計画力、問題解決能力、実践力などを培います。

<国際文化学科>

国際文化学科のカリキュラムは、教養科目、キャリアデザイン科目、基礎専門科目、専門科目、実践科目で構成されています。

1 教養科目

それ自体が独立した科目群であるとともに、専門科目での文化理解に必要とされる基礎的な視座を養います。人間への理解、社会への理解などが総合的に促されるとともに、実り豊かな人生を創造していく上で欠かすことのできない知性と教養が磨かれます。

2 キャリアデザイン科目

自己についての理解を深め、人生観・職業観を確立することをねらいとし、自らのキャリアをデザインできるようになるための科目です。

3 基礎専門科目

日本、地域及び諸外国の文化に関する専門科目の履修に備え、文化に対する幅広い思考力、判断力を養うとともに、研究調査、プレゼンテーション、言葉による表現能力といったコミュニケーションスキルの向上を目指す科目を多く配置し、少人数クラスによる実践的指導を行います。

4 専門科目

「西洋」「アジア」「日本」の各文化領域およびそれらを横断的に把握する「比較文化」の各領域の科目から構成されています。これら専門科目では、自らの興味と問題意識に関わる文化領域を核としながら、それ以外の各領域の科目を横断的に履修することが可能となっています。また、概論から研究法、さらには多様な演習授業へと、学習の進展に従って段階的に履修できるように工夫されており、卒業研究とも連動させながら、文化に対する思考の実践的な深化を可能とします。

履修の集大成として「卒業研究」を作成します。「卒業研究」は、各自が提出したテーマに基づいてそれぞれ専門とする教員のもとで、他の文化領域と有機的連関を図りながら、ゼミ形式で調査研究を進めるもので、2年次進級とともに開始されます。

5 実践科目

社会での実践運用に備え、情報処理、ビジネス実務、ビジネス英語などの科目が開講されています。

用語集

| | | |
|--|--|--|
| オムニバス方式 (Omnibus) | ある一つのテーマに対し、複数の教員がそれぞれ独立した講義等を行い、一つの授業科目として成立させる授業方式。 | |
| 学期 | 学校において教授、学習、校務等の整理の便宜のために学年をいくつかに分けた期間。学則により定めており、本学の場合には前期と後期の2期制としている。なお、1年を数回の学期に区分し、各学期毎に授業を完結し成績評価を行う制度を「セメスター制」という。 | |
| CAP制度 (Credit Cap System) | 履修科目の登録に際し、学期ごとに履修することができる単位数に上限を定める制度。学習すべき授業科目を精選することにより十分な学習時間を確保し、授業内容の十分な理解を進めることを目的とする。本学では、四大においてこの制度を導入している。 | |
| カリキュラム・ポリシー (CP) (Curriculum Policy) | 教育課程の編成方針。各課程教育において、ディプロマ・ポリシーで定めた達成目標の実質化・体系化を図るための方策・手段。 | |
| コンソーシアム (Consortium) | 複数の個人、企業、団体、政府(又はこれらの任意の組合せ)により組織される団体。高等教育機関においては、近隣地域に立地する複数の大学等により高等教育及び学術研究の振興、地域社会への寄与等を目的として組織されることが多い。 岩手県では平成20年に「いわて高等教育コンソーシアム」が設置され、共同シンポジウム、構成大学間の単位互換、図書館の相互利用等の事業を実施している。加盟校は岩手大学、岩手県立大学、盛岡大学、富士大学、岩手医科大学、岩手県立大学盛岡短期大学部、岩手県立大学宮古短期大学部、盛岡大学短期大学部、放送大学岩手学習センター、一関工業高等専門学校等の10校となっている。 | |
| 在学年限 | 在学することができる年限。本学においては、学部の学生は休学期間を除き8年(岩手県立大学学則第8条)。盛岡短期大学部の学生は4年(岩手県立大学盛岡短期大学部学則第8条)。研究科博士前期課程の学生は4年、博士後期課程の学生は6年(岩手県立大学大学院学則第6条)。 | |
| 試験 | 期末試験 | 学期末までに期間を定めて行うが、授業科目によっては、随時行われる試験。 試験の方法(筆記、口述発表、論文・レポート提出、実技又は作品制作等のいずれか、若しくはこれらの併用による)は、当該授業科目の各担当教員が決定し、実施している。 |
| | 追試験 | 所定の試験に欠席した者に対する試験。原則として行わないが、病気その他やむを得ない事情がある場合に限り、願い出により追試験を受けることができる(岩手県立大学履修規程第8条)。 |
| | 再試験 | 試験を受験して不合格になった者に対する再度の試験。原則として行わないが、やむを得ない事情により教授会で認められた場合には、願い出により再試験を受けることができる(岩手県立大学履修規程第9条)。 |
| | 不正行為 | 試験(期末試験、追試験、再試験)において不正行為をした者は、学則の規定による懲戒処分のほか、履修規程の規定による成績「不可」の措置がある。 |
| 再履修 | 単位を修得することができなかった(「不可」の評価を受けた)科目を、次学期以降に改めて履修すること。再履修により「可」以上の評価を受けた場合には、GPAの算定において前学期以前の「不可」の評価は除外される。 | |
| GPA制度 (Grade Point Average) | 学生毎の成績を履修単位当たりの平均値により表す制度。成績が数値化されることにより、学生の学習意欲の向上、厳格な成績評価、適切な修学指導への効果等を目的としている。 本学においては、5段階の評価(秀、優、良、可、不可)にそれぞれ4~0のGP(グレードポイント)を与え、この点数の履修単位当たりの平均値を算出するものとしており、対象となる科目は学部により異なる。学期GPAと通算GPAが事務管理公開システムにより表示される(岩手県立大学グレードポイントアベレージ制度運用規程)。 | |
| 自由聴講科目 | 自由選択により履修することができるが、卒業に必要な単位として算定されない科目。 | |
| 修業年限 | 卒業(修了)するために必要となる、学校に在学する年限。本学の場合は、学部は4年(岩手県立大学学則第7条)、盛岡短期大学部は2年(岩手県立大学盛岡短期大学部学則第7条)、研究科博士前期課程は2年、博士後期課程は3年(岩手県立大学大学院学則第5条)。 | |
| 集中講義 | 通常の授業とは別に、主として他大学等の教員により特定の日時に集中して行う授業。夏季・春季休業期間中に「集中講義期間」が設けられる。 | |

| | | |
|------------------------------------|---|--|
| 授業等調整期間 | 正規の授業期間内に休講となった科目の補講又は学期末の試験を集中的に実施する期間。この期間は特別な時間割が作成され、掲示により周知される。 | |
| シラバス (Syllabus) | 授業計画の詳細を示す資料。授業の全体概要、各回の授業内容、成績評価の基準及び方法、教科書・参考書籍等が示される。本学においては、事務管理公開システム又は大学ホームページから参照することができる。 | |
| 先修条件 | ある授業科目を履修するに当たって、その前に履修しておく必要がある別の授業科目その他の必要な条件(岩手県立大学履修規程第11条)。 | |
| 選択科目 | 自由選択により履修することができるが、その中から卒業に必要となる所定の単位を修得しなければならない科目。 | |
| 卒業(修了)要件 | 卒業(修了)するための要件。大学の場合には、4年以上在学し、124単位以上を修得するものとされている(大学設置基準第32条)。短期大学の場合には、2年以上在学し、62単位以上修得するものとされている(短期大学設置基準18条)。大学院の場合には、博士前期課程は2年以上在学し、30単位以上修得、かつ、修士論文の審査及び試験に合格すること、博士後期課程は大学院に5年(修士課程における2年の在学期間を含む。)以上在学し、30単位以上を修得し、かつ、博士論文の審査及び試験に合格することとされている。(大学院設置基準第16条、第17条)。 修得が必要となる授業科目及び単位数の内訳については、学則別表に学部・研究科毎に定められている。 | |
| 単位互換 | 短期大学、四年制大学や大学院が相互に他大学の学生の聴講を認め、学生が在学以外の大学の授業に出席し所定の試験に合格した場合には、その結果を在学における単位として認定する制度。 | |
| 単位制度 | 単位を基準として学習量を測る仕組み。1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容で構成することが標準とされており、授業の方法に応じた単位の計算方法が次のとおり定められている(大学設置基準第21条第2項)。 ①講義及び演習:15時間～30時間の授業をもって1単位 ②実験、実習及び実技:30時間～45時間の授業をもって1単位 ※卒業論文、卒業研究、卒業制作等については、これらに必要な学修等を考慮して定められる。 | |
| 長期履修学生制度 | 学生が職業を有している等の事情により、修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し卒業することを認める制度(大学院設置基準第25条)。本学では、大学院においてこの制度を導入している(岩手県立大学大学院学則第13条の2)。 | |
| 教育アシスタント | ティーチング・アシスタント(TA) (Teaching Assistant) | 教育の補助業務を行う学生。大学院生を対象として、学部学生等に対する助言や実験・実習・演習等の授業補助業務を行わせることにより、大学院生への教育トレーニング機会の提供と、手当の支給による経済的支援を目的としている。 |
| | スチューデント・アシスタント(SA) (Student Assistant) | 学士課程の学生を授業の補助業務に携わらせる場合、TAとは区別してスチューデント・アシスタント(SA)という。 |
| ディプロマ・ポリシー(DP) (Diploma Policy) | 学位授与の方針。卒業(修了)までにどのような能力の習得を目指すのか、学生が達成すべき具体的な学習成果を設定したもの。 | |
| ピア・サポート (Peer Support) | ピア(仲間)同士によりサポート(支援・支え合い)を行う仕組み。大学においては、生活面や学習面等において先輩や友人が相談相手となる等の制度をいう。 | |
| 必修科目 | 卒業要件として必ず修得しなければならない科目。 | |
| プレイスメント・テスト (Placement Test) | 習熟度別クラス分けのための試験。本学においては「英語基礎演習」・「英語実践演習」科目において受講者の習熟度水準に応じた授業を行うために実施している。 | |
| 履修制限科目 | 教育効果の観点、又は教室の収容定員の関係上、履修者の人数制限を設ける科目。本学においては、他の科目とは別に履修登録日(時間)を設け、システムによる抽選で履修者を決定する。 | |
| 履修登録 | 各学期の初め(年2回)に、学生自らが履修しようとする授業科目を登録する必須の手続。この手続を行わずに授業や試験を受けても単位を修得することはできない。 | |
| 履修取消制度 | 履修登録科目確定後、「授業の内容が自分の関心と異なっていた」「授業についていけない」等の事情が発生した場合に、履修放棄によるGPAの低下を防ぐための措置として、履修登録の取消しをすることができる期間。取消しのみ認められ、新たな科目の登録をすることはできない(岩手県立大学履修規程第4条の2)。 | |

I 盛岡短期大学の概要

1 生活科学科生活デザイン専攻

1 教育理念・教育目標

未来に向けての人間生活の最大の課題のひとつは、人間とそれを取り巻く環境との持続的関係の構築であり、地球規模から個人生活までのそれぞれのレベルでの対応が求められています。とりわけ、家族や地域規模での環境に配慮したライフスタイルを意識的に築いていくことが不可欠です。またさらに、近年の環境問題や次世代に受け継ぐエネルギー問題は、住環境と衣環境を融合して考える必要性を提示しています。

生活デザイン専攻では、こうした社会問題に対応できる問題解決能力に優れた人材の育成、ならびに、幅広い教養に関する知見をも融合し、もって現在よりもさらに多様化が予測される将来の生活を、自ら考え、そして作り出せる人材の養成を教育理念としています。

また、具体的な教育目標として、人間生活の「住」と「衣」に関する高度な技術と見識を持って、さまざまな社会問題を解決し、かつ地域に対する貢献をなしうる即戦的能力を持った人材の育成を目指し、社会が要請する諸資格を得られるような「実学」をも重視する教育を行います。

2 教育研究内容・特色

生活デザイン専攻のカリキュラムは、共通科目、基礎専門科目、専門科目の3つの科目群から構成されています。

共通科目は、高度化する各専門分野の効果的・効率的な理解・応用に役立つ基礎的な技術の修得を目指すとともに、社会生活を送る上で必要となる豊かな人間性と幅広い教養を身につけることを目標とします。

基礎専門科目と専門科目では、人間生活とそれを取り巻く生活環境としての「住」環境と「衣」環境とを総合的に理解するとともに、我々の生活自体が環境に及ぼす影響や今後の望ましい生活環境のあり方を考えるため、「住」と「衣」を中心とした科目、および人間社会の理解や高齢化社会に向けた科目の充実を図っています。

それぞれの科目では、講義と演習、実験、実習を通じ、「住」と「衣」について科学的かつ多角的、総合的にとらえながら実生活へ応用できることを目指します。

特に住関連では、所定の単位を修得すれば、国家資格である二級建築士と木造建築士の受験が可能となっています。(卒業後の実務経験は不要)

2 生活科学科食物栄養学専攻

1 教育理念・教育目標

『食習慣は健康づくりの基本』といわれています。食物栄養学専攻では、まず、自らが生涯にわたって健康で活動的な充実した人生を送ることができるように、健康科学の専門的な知識・技術を修得するとともに、広く食について学び、日々の生活に生かすことのできる能力を養う教育を行っています。

少子高齢社会の進行にともない、予防を重視した健康増進対策の必要性が高まっています。その中でも、生活習慣の1つである「食生活」の健康への影響は大きいと言われてしています。そのため、「食」による「健康の維持・増進」や「食教育」に関する専門知識と応用能力を持った人材が求められています。

食物栄養学専攻では、「社会生活と健康」、「人体の構造と機能」、「食と健康」について学ぶことを通して、人と食に関する科学を基礎から応用まで体系的に理解していきます。

授業は少人数体制で講義・演習・実験・実習をおこない、教員と学生、あるいは学生相互間で活発なコミュニケーションが取れるようにしています。さらに、整備された情報環境のもと、岩手県立大学各学部との単位互換制度を活用して、より深く学びたいと思う分野の科目を履修することもできます。

栄養士免許を取得するために必要な科目を中心にカリキュラムを組み、より良い方向へ食生活を支援する知識と技術を備えた社会に貢献できる人材の育成を目指しています。

2 教育研究内容・特色

食物栄養学専攻のカリキュラムは、共通科目、基礎専門科目、専門科目の3つの科目群で構成されています。卒業に必要な科目のほか、所定の科目を履修すると栄養士の資格を取得することができます。

共通科目は、高度化する各専門分野の効果的・効率的な理解・応用に役立つ基礎的な技術の修得を目指すとともに、社会生活を送る上で必要となる豊かな人間性と幅広い教養を身につけることを目標とします。

基礎専門科目は、現代人の食生活や環境について理解するための科目、及び、生命と健康について学ぶ上で基礎となる科目で構成されています。専門科目を履修する前に必要な知識や考え方について学びます。

専門科目は、栄養士の免許を取得するために必要な科目を中心に構成されています。おもに身体の構造や機能、食品の化学的性質を知り、食品に含まれる栄養素の働きなどを学び、「食による生活習慣病」を予防し、ライフステージや病態にそった栄養管理ができる能力と技術を修得するための科目です。また、栄養学の基礎や応用、栄養教育、特定給食施設の運営・管理などの講義や実習を通して、栄養士の業務に関わる知識と技術について学びます。さらに、ゼミ形式で行われる「卒業研究」では、教員の専門教育研究領域ごとに、各自が選んだテーマの研究を通して、計画力、問題解決能力、実践力などを培います。

卒業後、3年間の栄養士の実務を経験した後に管理栄養士国家試験を受験することができます。

3 国際文化学科

1 教育理念・教育目標

今、私たちは、自らが拠って立つ地域にしっかりと足を据え、同時に自らと異なる文化思想をもつ他者の存在に十分心と理解とをとどかせた上で、他者と正しくコミュニケーションできる能力を養うことが求められています。自他の文化理解の上に立って、自らと自らの住む地域文化を日本の他の地域、さらには諸外国へ発信していく実践的方法を身につける、それこそが国際化の時代を生きる人間の姿だといえます。またそうした能力は、社会生活の上においても、他者への思いやりと理解という形で、いかんなく発揮されます。

国際文化学科では豊かな人間性と国際感覚とを併せ持った、社会に価値ある人材を育成するために、次の三点を教育目標として掲げています。

- 西洋・アジア及び日本の多様な文化や交流の歴史を幅広く理解し、これを尊重する豊かな国際感覚を身につけた、良識ある人材を育成する。
- 自らが生活する地域とそれが持つ文化の諸相をより深く理解し、地域文化の振興や地域の国際化に積極的に寄与する人材を育成する。
- 豊かで実践的なコミュニケーション能力を身につけ、主体的に考え発言できる自立した人材を育成する。

2 教育研究内容・特色

国際文化学科のカリキュラムは、教養科目、キャリアデザイン科目、基礎専門科目、専門科目、実践科目で構成されています。

《教養科目》

それ自体が独立した科目群であるとともに、専門科目での文化理解に必要とされる基礎的な視座を養います。人間への理解、社会への理解などが総体的に促されるとともに、実り豊かな人生を創造していく上で欠かすことのできない知性と教養が磨かれます。

《キャリアデザイン科目》

自己についての理解を深め、人生観・職業観を確立することをねらいとし、自らのキャリアをデザインできるようになるための科目です。

《基礎専門科目》

日本、地域及び諸外国の文化に関する専門科目の履修に備え、文化に対する幅広い思考力、判断力を養うとともに、研究調査、プレゼンテーション、言葉による表現能力といったコミュニケーションスキルの向上を目指す科目を多く配置し、少人数クラスによる実践的指導を行います。

《専門科目》

「西洋」「アジア」「日本」の各文化領域およびそれらを横断的に把握する「比較文化」の各領域の科目から構成されています。これら専門科目では、自らの興味と問題意識に関わる文化領域を核としながら、それ以外の各領域の科目を横断的に履修することが可能となっています。また、概論から研究法、さらには多様な演習授業へと、学習の進展に従って段階的に履修できるように工夫されており、卒業研究とも連動させながら、文化に対する思考の実践的な深化を可能とします。

《卒業研究》

履修の集大成として「卒業研究」を作成します。「卒業研究」は、各自が提出したテーマに基づいてそれぞれ専門とする教員のもとで、他の文化領域と有機的連関を図りながら、ゼミ形式で調査研究を進めるもので、2年次進級とともに開始されます。

《実践科目》

社会での実践運用に備え、情報処理、ビジネス実務、時事英語などの科目が開設されています。

II 履修

1 はじめに

1. 履修の手引き

本書「履修の手引き」は、皆さんが本学で学業を進めていく上で必要な、履修に関する事項を学則や履修規程等に基づいて編集したものです。

卒業するまで常に手元に置いて機会あるごとに参照し、正しい認識のもと履修計画に役立ててください。

2. 掲示・連絡

大学では、学生への通知や連絡を、すべて**掲示**により行います。

履修や授業に関わる情報は、**本部棟・共通講義棟間通路と、各学部棟入口にある電子掲示ボード**により通知します。授業や試験等に関わる重要な情報ですので、必ず毎日確認してください。掲示された事項は学生全体に周知されたものとみなされます。

また、学生個人宛にメールで連絡を行うこともあります。メールチェックも定期的に行うようにしてください。

掲示やメールによる連絡を見落としたことにより不利益を受けた場合でも、自己責任となりますので十分注意してください。

3. 相談窓口

履修に関することで分からないことがある時、呼び出しを受けた時は、本部棟1階の学生センターにお問い合わせください。

4. Web学生便覧

本書のほか、岩手県立大学ホームページ内「Web 学生便覧」には、履修関係の重要な情報を随時掲載しています。定期的に確認してください。

また、各種証明書の申請用紙をダウンロードできます。

岩手県立大学ホームページ内「Web 学生便覧」アドレス

<http://www.iwate-pu.ac.jp/living/gslife/index.html>

- ・学年暦
- ・時間割
- ・シラバス
- ・学則、履修規程などの規程集
- ・各種様式(証明書交付願、欠席届など)

(参考)履修に関する諸規程

- ・岩手県立大学盛岡短期大学部学則
- ・岩手県立大学盛岡短期大学部学位規程
- ・岩手県立大学盛岡短期大学部履修規程
- ・岩手県立大学グレードポイントアベレージ制度運用規程

Web学生便覧
QRコード



2 大学における学修について

1. 履修とは

大学では、学位修得(卒業)に向けて必要な科目を選択し、授業を受けます。卒業までには多くの科目の授業を受ける必要がありますが、それらの科目を各自の目標に応じて習い修めていくことが「履修」です。

履修は、本学の学則や履修規程等に沿って行われます。その中で、どの授業を履修するのか、学期毎の時間割はどうするのかなど、大学において何をどのように学んでいくのかを決めるのは学生自身ですので、一人一人がよく考えて履修を進める必要があります。

2. 履修計画

大学における科目履修は、自らの責任において履修計画を立て、卒業に必要な単位を自主的に修得していくことに特徴があります。

履修の方法を誤ると、進級や卒業、資格取得に影響を及ぼすことがあります。以下の資料を熟読し、しっかりと履修計画を立ててください。

- 授業時間割表(事前配布又は Web 学生便覧)**
- 授業科目一覧表(履修の手引き掲載)**
- シラバス(事務管理公開システムから参照)**

また、毎年4月に行われる各種ガイダンスは、履修関係の重要な情報を得る機会ですので必ず出席してください。

3. シラバス

シラバスとは、授業の内容や進め方などを記した授業計画書のことです。履修する科目を選択したり授業を受けたりするにあたり、大切な情報が記載されています。シラバスをよく読むことにより、その科目に関する具体的なイメージを持つことができるとともに、各自の履修計画における各科目の位置づけを把握することもできます。

シラバスは年度毎に更新され、前期開講科目と後期開講科目のいずれも年度の開始時には公開されます。履修登録前には、当該学期に開講される科目のシラバスに必ず目を通し、履修する科目選択の参考にするとともに、その授業の学修目標をしっかりと理解した上で授業にのぞむことが重要です。

シラバスの記載内容

- 授業科目名(英語名)
- 担当教員
- 教育課程
- 開講年次
- 授業形態
- 資格対応
- 授業のねらい・概要
- キーワード
- 学修目標
- 授業の計画
- 教科書【学生が必ず準備するもの】
- 参考書等
- 授業の形式
- 成績評価の方法
- 授業前、授業後の学修
- 履修にあたっての留意点

シラバス検索画面

QRコード



4. 単位制度

単位とは学修時間を表す名称で、個々の授業科目について所定の時間を履修し、試験その他の方法により合格と判定されたときに与えられます。

単位数は授業科目ごとに定められ、卒業に必要な単位数(卒業要件単位数)は、学部ごとに定められています。

各授業科目の単位数は、**1単位の授業科目を教室内、教室外を合わせて 45 時間の学修を必要**とする内容で構成され、次の基準により算定されます。

| | |
|----------|---------------------------------------|
| 講義、演習 | 15 時間～30 時間の範囲内で定める時間の授業をもって 1 単位とする。 |
| 実験、実習、実技 | 30 時間～45 時間の範囲内で定める時間の授業をもって 1 単位とする。 |
| 卒業研究・制作等 | 必要な学修等を評価して所定の単位を与える。 |

自学自習について

単位を修得するためには、教室内の学修(授業)だけでなく、教室外の学修(自学自習)を合わせた十分な学修が必要です。担当教員の指示に従いながら、主体的に取り組みましょう。

(参考) 例えば、2単位修得するためには…

1単位 45 時間の学修が必要ですから、2単位の講義科目で単位を修得するためには 90 時間の学修が必要ということになります。90 時間の内訳は、授業 15 回で 30 時間(1 回の授業時間 90 分は 2 時間として換算します)、残り 60 時間がその授業に対する自学自習に要する時間です。

| | 1 授業あたりの学修時間 | 1 学期当たりの授業 | 合計時間数 |
|------|--------------|------------|-------|
| 授業 | 2 時間 | 15 回 | 30 時間 |
| 自学自習 | 4 時間 | 15 週 | 60 時間 |
| 計 | | | 90 時間 |

1 回の授業につき、
4 時間の自学自習が必要！

3 授業

1. 授業時間(滝沢キャンパス)

| 1時限 | 2時限 | 3時限 | 4時限 | 5時限 |
|------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 8:50～10:20 | 10:30～12:00 | 13:00～14:30 | 14:40～16:10 | 16:20～17:50 |

2. 授業の実施場所

授業は共通講義棟や各学部棟などで行われます。

それぞれの授業の実施場所は、授業時間割で確認してください。教室の場所が分からない時は、「**学生便覧**」のキャンパスガイドで調べることができます。

3. 教室変更

授業の担当教員の判断により教室を変更することがあります。

4. 休講

大学の行事又は授業担当教員の公務、出張、病気等の理由により授業ができなくなった場合は、休講になります。

教員の事前指示や休講・教室変更の掲示がなく、授業開始時刻から30分経過しても教員が教室にこない場合には、学生センターに確認し、指示を受けてください。

5. 補講

休講となった授業に対しては、原則として補講が行われます。

6. 授業の欠席

傷病、忌引等のため授業を欠席する場合の取扱い(届出が必要かどうか、提出方法をどうするか、届出理由を成績評価に考慮するか否か等)は、各学部等や授業担当教員の判断に任されています。

シラバスやガイダンス等で各授業での届出の要否・方法を確認のうえ、届出の必要な授業のみ欠席届を提出してください。

(注) メールによる提出については「Web 学生便覧」に標準様式を掲載しています。

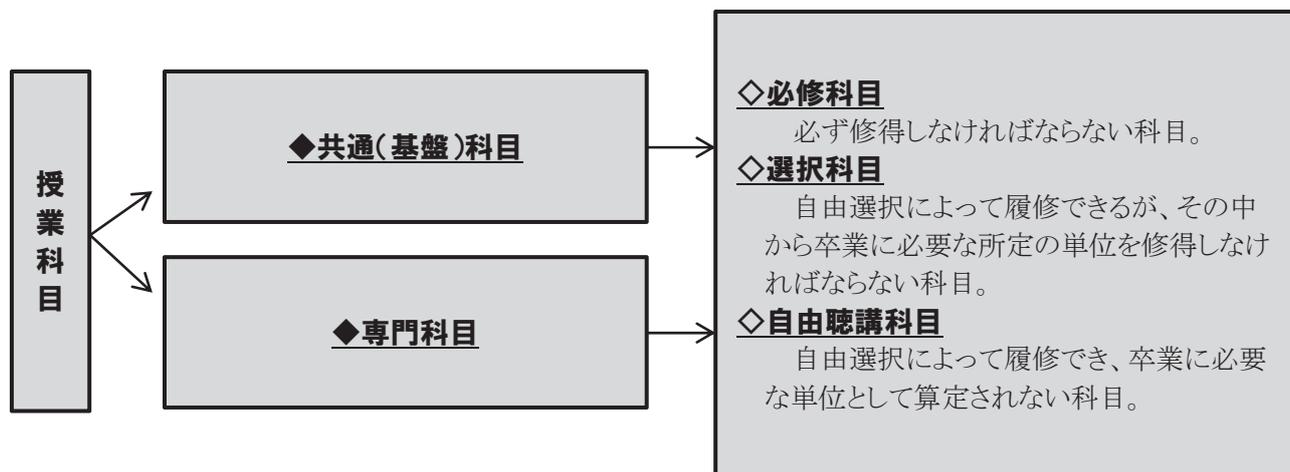
7. 特別な授業期間

通常の授業期間の他に、下記のような授業期間が設けられています。

| | |
|----------------|---|
| 集中講義期間 | 一定期間に集中して授業を行う授業科目があります。集中講義は、主に8月中旬・下旬、2月中旬に行われます。 |
| 授業等調整期間 | 通常の授業期間内に休講となった科目の補講や、試験が実施される期間。この期間の授業等は、通常とは違う時間割で行われます。 |

8. 授業科目の分類

授業科目は、次のように分類されます。



4 履修登録

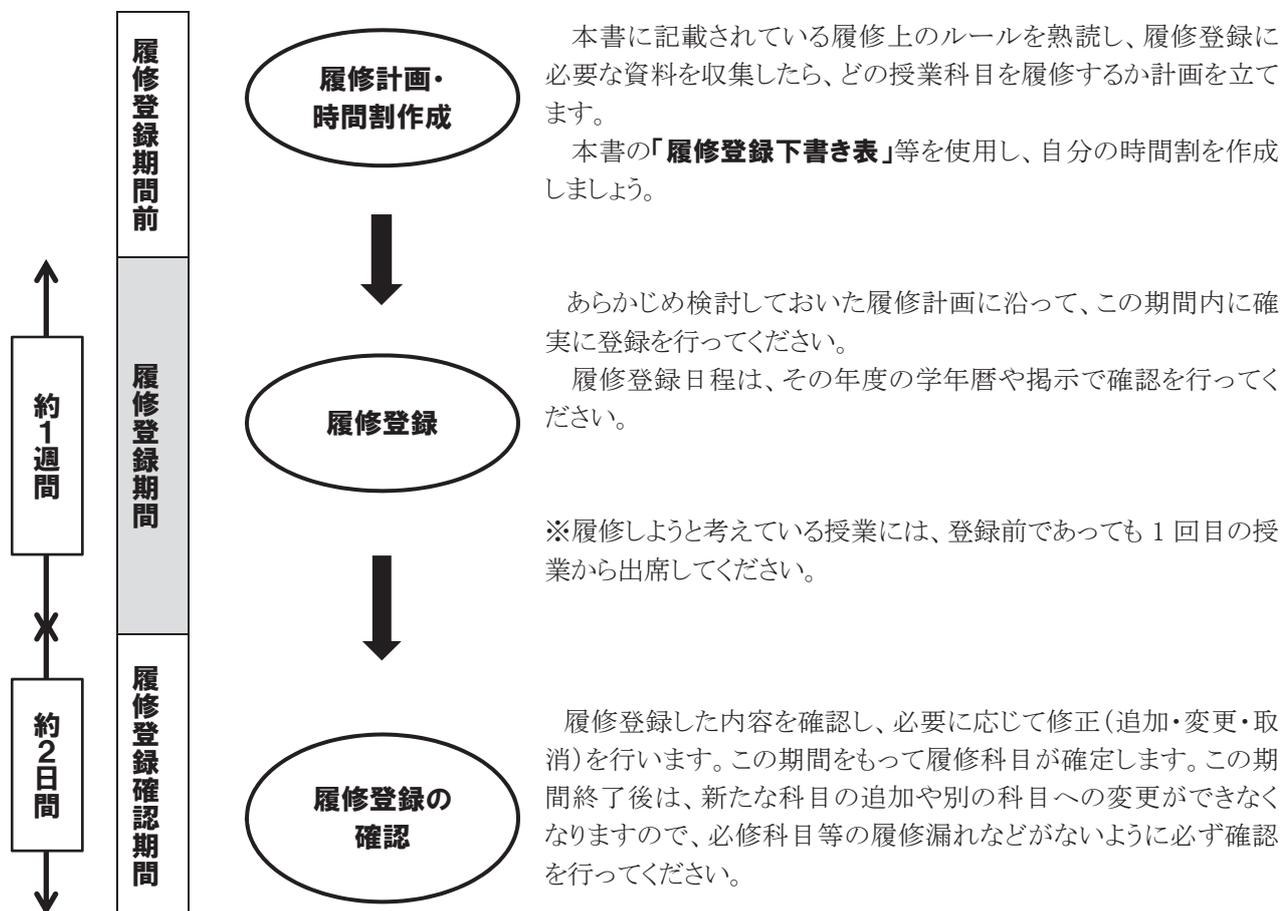
1. 履修登録について

履修登録は、毎学期の初めに、学生自らが履修しようとする授業科目を登録する必須の手続です。学生は、情報端末により、事務管理公開システムで各自履修登録を行います。なお、情報端末操作方は、「学内情報システム操作マニュアル」を参照してください。

この手続きを行わずに授業に出席し、試験を受けても単位を修得することはできません。

履修登録の流れや方法をしっかり理解し、各自確実に履修登録を行ってください。

2. 履修登録の流れ



3. 履修取消期間

履修登録を行い、約1ヶ月間授業を受けてみて、当初の目的が達成される見込みがない等の理由がある場合には、この期間中に履修登録を取り消すことができます。履修の取消には、「履修取消届」の提出が必要です。

これは、履修放棄による「不可」評価でGPA数値(「6 成績評価」参照)が低下することを防ぐための措置として設けているものです。

4. 履修登録の注意事項

履修できない科目

- ・履修登録をしていない授業科目
- ・既に単位を修得した授業科目
- ・授業時間帯が重複する授業科目(隔週開講科目除く)
- ・先修条件のある科目で、履修希望者がその条件を満たしていない場合

通年開講科目

前期開講科目は前期、後期開講科目は後期にそれぞれ履修登録を行うのが原則です。ただし、通年開講科目の場合は、前期に履修登録を行うと後期は自動的に履修登録が行われます。

実習科目・集中講義科目

曜日・時限毎に登録する画面の下に、集中講義と実習の項目がありますので、忘れずに登録を行ってください。

配当年次と履修時期

授業科目には履修できる年次の制限(開講年次)があり、自分の年次と同じ、又は下位の開講年次の授業科目は履修できますが、上位の開講年次の授業科目は履修できません。

再履修

単位の修得が認められなかった科目は、他の履修希望科目との時間割が重複しない場合に限って、後年に再履修することができます。

科目の追加・変更

履修取消期間における履修取消を除き、履修登録確認期間終了後の科目の追加や変更は認められません。

5. 国際文化学科クラス指定科目の履修登録

国際文化学科の英語科目、基礎演習Ⅰ・Ⅱ及び日本語表現Ⅰは、所属するクラスがあらかじめ指定されています。学部棟掲示板や担当教員に確認のうえ、指定されたクラスの開講曜日・時限の各科目を履修登録してください。**指定外の開講曜日・時限で授業に出席した場合、単位を修得することはできません。**

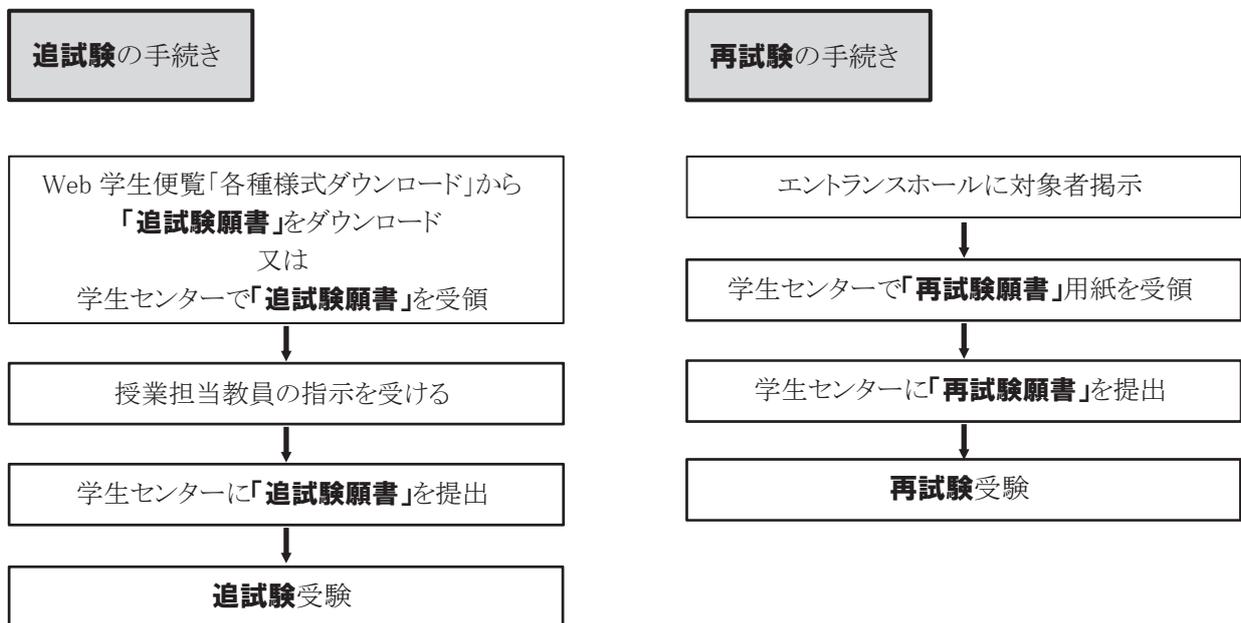
5 試験

1. 試験の種類

| | |
|-----------------------|--|
| 期末試験・ 随時試験 | 期末試験は、概ね授業最終日に実施されます。ただし、授業の担当教員が必要と認めたときは随時試験が行われ、これをもって期末試験の代わりとすることがあります。 |
| 追試験 | 所定の試験に欠席した者に対する試験。原則として行わないが、病気その他やむを得ない事情がある場合に限り、願い出により追試験を受けることができます。 |
| 再試験 | 試験を受験して不合格になった者に対する再度の試験。原則として行わないが、やむを得ない事情により教授会で認められた場合には、願い出により再試験を受けることができます。 |

2. 追試験・再試験の手続き方法

追試験および再試験の手続きは、それぞれ以下のように行います。



3. 試験の方法

試験は、筆記、口述、レポート提出、実技、実習等により行われます。

4. 受験上の注意

- 履修登録をしていない授業科目の受験は認められません。
- 試験の受験に際しては、学生証を机上に提示してください。
- 試験において**不正行為**をした者は、学則による懲戒処分を受けるほか、当該学期の成績「不可」の措置があります。

不正行為の取扱い

試験における不正行為とは、次に掲げる行為をいいます。

- (1) 試験監督者の指示や注意に従わないこと。
- (2) 代人として受験すること、又は、代人に受験させること。
- (3) 試験解答用紙を交換すること。
- (4) カンニング・ペーパー及びそれに類するメモ類等の用意、又は、それらを使用すること。
- (5) 所持品、身体、机、壁等に解答及びそれに類するものを書き込むこと。
- (6) 使用が許可されていない書籍、ノート等を使用すること。
- (7) 使用が許可されている書籍、ノート等を貸借すること。
- (8) 解答を写させること、又は、写しとること。
- (9) 他人の解答を盗み見ること。
- (10) 声、動作等で解答を伝達すること、又は、伝達を受けること。
- (11) 作成者の許諾の有無に係わらず、他人が作成したレポートを盗用し、自分の文章として提出すること。
- (12) レポートに出典を明記せずに、文献やインターネット、電子書籍の記述・内容をコピーし、レポートに利用すること。
- (13) 他人に依頼し、または他人の依頼を受けてレポートを作成すること。
- (14) その他、これに類する行為を行うこと。

6 成績評価

1. 成績評価の方法

成績は、試験の成績、平常の成績及び出席状況等を総合的に判断して評価されます。評価方法は授業科目ごとに異なり、シラバスに記載されています。

2. 単位認定・成績通知

成績の評価は次のとおりです。合格した場合には所定の単位が与えられます。成績について文書による通知は行いませんので、学期末に各自で事務管理公開システムにより確認してください。

◆評点を付す授業科目

| 評価 | GP | 評点 | 成績評価の定義 | |
|-----|----|----|-------------|-----------------------------|
| 合格 | 秀 | 4 | 90点以上 | 目標を上回る特に優れた水準に達している。 |
| | 優 | 3 | 90点未満 80点以上 | 目標に関して十分な水準に達している。 |
| | 良 | 2 | 80点未満 70点以上 | 目標に関して事前に想定される標準的な水準に達している。 |
| | 可 | 1 | 70点未満 60点以上 | 目標に関する基本的な水準に達している。 |
| 不合格 | 不可 | 0 | 60点未満 | 目標に関する基本的な水準に達していない。 |

※「GP」は「グレードポイント」の略であり、「GPA」の算定のために利用されます。

◆評点を付さない授業科目

ごく例外的に特別な事情がある場合のみ、合格または不合格の評価を行うことがあります。

| 成績評価 | 評点 |
|------|------------|
| 合格 | 60点以上相当の評価 |
| 不合格 | 60点未満相当の評価 |

3. GPA制度

GPA(Grade Point Average)制度は、主に米国の大学で一般的に行われている成績評価方法の一種で、学生ごとの履修科目の成績の平均を数値により表すものです。

GPAは「学期GPA」と「通算GPA」の2種類が算定されます。学生自身の成績が具体的な数値として表されるため、自主的な履修計画や学修目標の設定に利用することが可能となります。

また、自分の成績が学部内でどの程度の位置にいるのかを把握する目安とするため、学期ごとに学部別の通算GPAの平均値を学内ホームページで公開します。

GPAの計算

| 学期GPA | 通算GPA |
|---|--|
| $\frac{\text{(当該学期に評価を受けたGPA対象科目で得たGP} \times \text{当該科目の単位数)の合計}}{\text{当該学期に評価を受けたGPA対象科目の単位数の合計}}$ | $\frac{\text{(在学中に評価を受けた全GPA対象科目で得たGP} \times \text{当該科目の単位数)の合計}}{\text{在学中に評価を受けたGPA対象科目の単位数の合計}}$ |

GPA対象科目

GPA算出の対象となる科目は、学部毎に異なります。授業科目一覧で確認してください。

GPAの通知

学期末の成績通知と同時に、事務管理公開システムにより確認することができます。

4. 既修得単位の認定

本学に入学する前に大学等において履修した授業科目について修得した単位は、本学における授業科目の履修により修得した単位として認められることがあります。この場合、既修得単位認定申請書に所定の書類を添えて学生センターに提出する必要があります。

認定できる単位数には、下記のとおり上限が定められています。

| | 修得単位認定上限 |
|---------------|----------|
| 岩手県立大学 | 60 単位 |
| 岩手県立大学盛岡短期大学部 | 30 単位 |
| 岩手県立大学大学院 | 10 単位 |

なお、岩手県立大学四年制学部の3年次への編入学生に対する既修得単位の認定は、別に定められています。

7 卒業及び学位

2年以上在学し所定の単位数を修得した学生には卒業が認定され、次の学位が授与されます。

| 学科 | 学位 |
|--------|-------------------------------------|
| 生活科学科 | 短期大学士(生活科学) Associate of Science |
| 国際文化学科 | 短期大学士(国際文化) Associate of Arts |

8 他学科(専攻)授業科目の履修

本学では、学修の幅を広げるため、所属する学科(専攻)に指定されていない他学科(専攻)の授業科目(実験及び実習科目等を除く)の履修を認めています。

1. 履修できる科目

開講科目は、各学期の履修登録期間中に配布する「他学科(専攻)履修開講科目一覧表」に掲載されています。

また、各授業科目には履修できる年次の制限(開講年次)があり、履修できるのは原則として自分の年次と同じ開講年次の授業科目、及び下の開講年次の授業科目に限られます。

2. 申請方法

募集要項を参照の上、「他学科(専攻)授業科目履修申請書」の必要事項を記入し、学生センターに提出してください。

申請には、授業担当教員の許可及び所属学科専攻の担当教員等の指導が必要な場合がありますので、募集要項をよく確認の上、申請してください。

なお、申請は各学期の履修登録期間中に受け付けます。

3. 単位認定

他学科(専攻)で修得した単位は、自由聴講科目として認定され、所属学科(専攻)の卒業要件単位には参入されません。

4. 注意事項

履修決定後でも、教室の収容人数の都合等により決定を取り消すことがあります。

9 岩手県立大学単位互換制度

本学の学生は、「岩手県立大学間単位互換制度」により、岩手県立大学(四大)及び宮古短期大学部の授業を、申請により履修することができます。修得した単位は、自由聴講科目として本学で修得したものと認定されます。

1. 学生の身分

本学の学生が岩手県立大学(四大)及び宮古短期大学部の授業科目を履修する場合は**派遣学生**、岩手県立大学(四大)及び宮古短期大学部の学生が本学の授業科目を履修する場合は**特別聴講学生**となります。

2. 出願資格

出願時において1年生から2年生に在学している学生が出願することができます。出願にあたっては、事前に教務担当教員に相談してください。

3. 授業料等

入学料、授業料、検定料は無料です。

4. 履修科目及び定員

履修することができる科目及び定員は、各学期の履修登録期間中に配布する「岩手県立大学間特別聴講学生募集要項」で確認してください。また、講義内容の詳細については、大学ホームページのシラバスを参考にして下さい。

定員を超えた応募があった場合は、先着順となります。

5. 出願方法

「岩手県立大学間特別聴講学生募集要項」をよく読んで、手続きを行ってください。

| | |
|-------|------------------------------|
| 出願書類 | ● 特別聴講学生志願書 1通 ● 派遣学生願 1通 |
| 出願期間 | 各学期履修登録期間 |
| 書類提出先 | 本学学生センター |

6. 受講許可

| 履修時期 | 受講許可通知時期 |
|------|----------|
| 前期 | 5月下旬 |
| 後期 | 10月下旬 |

選考結果は、本学学生センターから通知します。ただし、選考により、受講許可されなかった場合には、当該通知以前に受講した事実については無効となります。

7. 単位認定

この単位は自由聴講科目として認定され、卒業要件単位には算入されませんので注意してください。

8. 注意事項

- 科目ごとに定められた定員を超えた場合には、履修できない場合があります。
- 原則として「特別聴講学生志願書」提出後の履修希望科目の変更はできません。確実に履修可能な科目のみを選択してください。

10 語学科目における単位認定

本学が実施する以下の海外研修は、申請により本学における修得単位として認定されます。

◆本学が実施する海外研修

| コース | 本学における授業科目および認定単位数 |
|-----------------|--|
| 中国語・中国文化コース | 「中国語・中国文化Ⅰ」「中国語・中国文化Ⅱ」のうちいずれか2単位 |
| 韓国語・韓国文化コース | 「韓国語・韓国文化Ⅰ」「韓国語・韓国文化Ⅱ」のうちいずれか2単位 |
| スペイン語・スペイン文化コース | 「スペイン語・スペイン語圏文化Ⅰ」「スペイン語・スペイン語圏文化Ⅱ」のうちいずれか2単位 |

申請方法

| 学期 | 申請期限 | 提出書類 | 提出場所 |
|----|------|--|--------|
| 前期 | 8月末日 | ● 単位認定申請書 1通 ● 各試験結果通知書(海外研修の場合には研修修了証)の写し 1通 | 学生センター |
| 後期 | 1月末日 | | |

成績表示

語学における修得単位認定に係る成績は、成績表中の評価欄に合(合格)で表示され、「認定」欄に「○」が表示されます。

単位認定結果

単位が認定された場合は、申請月の翌月末に「単位認定通知書」により通知します。

Ⅲ 授業科目一覽表

1 生活科学科

(平成29年度以前の入学生は、担当教員の一部変更を除き、入学年度に配布された授業科目一覧表が適用されます。)

■ 共通科目 (各専攻共通)

共通科目は、生活科学科両専攻の基幹となる科目を学び、さらに、社会生活を送るうえで必要である豊かな人間性と幅広い教養を身につけると共に、さまざまな学問分野の学び方に触れ、それを専門分野の学修に応用できるように配慮しています。

また、専門科目の理解に資する観点も加味し、人間、生活、文化、社会との関連性を重視するとともに、健康で豊かな人生を創造していくうえでの知識や技術を身につけ、心身の健康を養い、情報化の進展に対応した教育を行います。

| 授業科目 | 担当教員氏名 (非)=非常勤講師 | 単位数 | | GPA 対象 | 時間 数 | 週配当時間 | | | | 卒業要件 単位数 | |
|-------------|---------------------|------------------------------------|----|-----------|---------|-------|----|----|----|-------------|-----------------------|
| | | 必修 | 選択 | | | 1 | | 2 | | | |
| | | | | | | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | | |
| 基礎科目 | 生活科学概論 ※オムニバス | 赤澤 真理 佐藤 恭子 川崎 雅志 長坂 慶子 | 2 | | ○ | 30 | 2 | | | | 必修6単位修得 |
| | 情報科学概論 | 鈴木 亮 (非) | 2 | | ○ | 30 | 2 | | | | |
| | キャリアデザインⅠ | 高瀬 和実 (非) 盛岡短期大学部教員 | 1 | | | 30 | 2 | | | | |
| | キャリアデザインⅡ | 高瀬 和実 (非) 盛岡短期大学部教員 | 1 | | | 30 | | 2 | | | |
| | 小計 | | 6 | 0 | | 120 | 6 | 2 | 0 | 0 | |
| 教養科目 | 哲学の世界 | 井澤 清一 | | 2 | ○ | 30 | 2 | | | | 必修1単位を含め 7単位以上修得 |
| | 文学の世界 | 須藤 宏明 (非) | | 2 | ○ | 30 | 2 | | | | |
| | 歴史と文化 | 誉田 慶信 (非) | | 2 | ○ | 30 | | 2 | | | |
| | 芸術の世界 | 長谷川 誠 (非) | | 2 | ○ | 30 | | | 2 | | |
| | 生活と法 | 吉原 秋 | | 2 | ○ | 30 | 2 | | | | |
| | 心理の世界 | 桐田 隆博 (非) | | 2 | ○ | 30 | | | 2 | | |
| | 生活の化学 | 千葉 俊之 | | 2 | ○ | 30 | 2 | | | | |
| | 生命と科学 | 吉田 元 (非) | | 2 | ○ | 30 | 2 | | | | |
| | 人間関係論 | 田村 達 (非) | | 2 | ○ | 30 | | | | 2 | 開講せず |
| | 消費者保護論 | 川上 博基 (非) 盛岡市消費生活 センター職員 (非) | | 2 | ○ | 30 | | 2 | | | |
| | 文化人類学 | 原 英子 | | 2 | ○ | 30 | 2 | | | | |
| 体育実技 | 井上 一彦 (非) | 1 | | | 30 | | 2 | | | | |
| 小計 | | 1 | 22 | | 360 | 12 | 6 | 4 | 2 | | |
| 外国語 関係科目 | 英語Ⅰ | 石橋 敬太郎 小川 修平 (非) | 2 | | ○ | 30 | 2 | | | | 必修4単位を含め4 単位以上修得 |
| | 英語Ⅱ | 石橋 敬太郎 小川 修平 (非) | 2 | | ○ | 30 | | 2 | | | |
| | 英語Ⅲ | 多田 信哉 (非) | | 2 | ○ | 30 | | | 2 | | |
| | 英語Ⅳ | 多田 信哉 (非) | | 2 | ○ | 30 | | | | 2 | |
| | フランス語・フランス文化Ⅰ | 熊本 哲也 (非) | | 2 | ○ | 30 | 2 | | | | |
| | フランス語・フランス文化Ⅱ | 熊本 哲也 (非) | | 2 | ○ | 30 | | 2 | | | |
| | ドイツ語・ドイツ文化Ⅰ | Uwe Richter (非) | | 2 | ○ | 30 | 2 | | | | |
| | ドイツ語・ドイツ文化Ⅱ | Uwe Richter (非) | | 2 | ○ | 30 | | 2 | | | |
| | 中国語・中国文化Ⅰ | 劉 文 静 (非) | | 2 | ○ | 30 | 2 | | | | |
| | 中国語・中国文化Ⅱ | 劉 文 静 (非) | | 2 | ○ | 30 | | 2 | | | |
| | ハンガール・韓国文化Ⅰ | 姜 奉 植 (非) | | 2 | ○ | 30 | 2 | | | | |
| | ハンガール・韓国文化Ⅱ | 姜 奉 植 (非) | | 2 | ○ | 30 | | 2 | | | |
| | スペイン語・スペイン語圏文化Ⅰ | 三宅 禎子 (非) | | 2 | ○ | 30 | 2 | | | | |
| | スペイン語・スペイン語圏文化Ⅱ | 三宅 禎子 (非) | | 2 | ○ | 30 | | 2 | | | |
| | ロシア語・ロシア文化Ⅰ | コロボフドミトリ (非) | | 2 | ○ | 30 | 2 | | | | 集中講義 |
| ロシア語・ロシア文化Ⅱ | 黒岩 幸子 (非) | | 2 | ○ | 30 | | 2 | | | | |
| 小計 | | 4 | 28 | | 480 | 14 | 14 | 2 | 2 | | |
| 共通科目合計 | | | 11 | 50 | | 960 | 32 | 22 | 6 | 4 | 必修11単位を含め 17単位以上修得 |

(注)外国語科目のいずれかのⅡを履修するためには、その外国語科目のⅠを履修していることが必要である。

また、「英語Ⅲ」を履修するためには「英語Ⅰ・Ⅱ」の単位を修得しておく必要がある。

■ 専門科目
《生活デザイン専攻》

| 授業科目 | 担当教員氏名 (非) = 非常勤講師 | 単位数 | | GPA 対象 | 建 築 士 | 時 間 数 | 週配当時間 | | | | 卒業要件 単位数 | |
|-------------|-----------------------|-------------|----|-----------|-------------|-------------|-------|----|----|----|---|--|
| | | 必修 | 選択 | | | | 1年 | | 2年 | | | |
| | | | | | | | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | | |
| 基礎専門科目 | 生活と経済 | 新田 義修(非) | 2 | ○ | | 30 | | 2 | | | 必修13単位を 含め23単位以 上 修 得 | |
| | 人間と社会 | 三須田 善暢 | 2 | ○ | | 30 | | 2 | | | | |
| | 社会福祉論 | 佐藤 哲郎(非) | 2 | ○ | | 30 | 2 | | | | | |
| | 環境科学 | 相馬 優樹 | 2 | ○ | | 30 | | | | 2 | | |
| | 基礎造形 | 赤澤 真理 | 1 | ○ | | 30 | 2 | | | | | |
| | | 高橋 幸男(非) | | | | | | | | | | |
| | | 二宮 柊子(非) | | | | | | | | | | |
| | 服飾文化論 | 佐藤 恭子 | 2 | ○ | | 30 | | | | 2 | | |
| | ファッションと健康 | 菊池 直子 | 2 | ○ | | 30 | | | | 2 | | |
| | 食環境論 | 諸岡 みどり | 2 | ○ | | 30 | | | | 2 | | |
| | 住文化論 | 赤澤 真理 | 2 | ○ | ○ | 30 | 2 | | | | | |
| | 基礎数理 | 松村 光太郎 | 2 | ○ | | 30 | 2 | | | | | |
| | 基礎製図Ⅰ | 内田 信平 | 1 | ○ | ○ | 30 | 2 | | | | | |
| | 基礎製図Ⅱ | 内田 信平 | 1 | ○ | ○ | 30 | | 2 | | | | |
| | 情報処理演習 | 鈴木 亮(非) | 1 | ○ | | 30 | | 2 | | | | |
| 情報統計学 | 松村 光太郎 | 2 | ○ | | 30 | | 2 | | | | | |
| 老年学 | 佐々木 恒子(非) | 2 | ○ | | 30 | | 2 | | | | | |
| 色彩とデザイン | 菊池 直子 | 2 | ○ | | 30 | 2 | | | | | | |
| 小計 | | 13 | 15 | | | 480 | 12 | 12 | 0 | 8 | | |
| 専門科目 | 卒業研究 | 生活デザイン専攻全教員 | 4 | ○ | | 60 | | | 2 | 2 | 集中講義 必修22単位を 含め28単位 以上 修 得 | |
| | ファッション造形 | 佐藤 恭子 | 2 | ○ | | 30 | 2 | | | | | |
| | ファッション造形実習Ⅰ | 佐藤 恭子 | 1 | ○ | | 45 | | 3 | | | | |
| | ファッション造形実習Ⅱ | 佐藤 恭子 | 1 | ○ | | 45 | | | 3 | | | |
| | ファッション造形応用演習 | 大橋 寛子(非) | 1 | ○ | | 30 | | | 1 | | | |
| | テキスタイルデザイン論 | 菊池 直子 | 2 | ○ | | 30 | | 2 | | | | |
| | テキスタイルデザイン演習 | 菊池 直子 | 1 | ○ | | 30 | | | 2 | | | |
| | 住宅の施工と積算 | 小山 公一(非) | 2 | ○ | ○ | 30 | | | | 2 | | |
| | 建築法規Ⅰ | 永井 昌(非) | 2 | ○ | ○ | 30 | | | 2 | | | |
| | 建築法規Ⅱ | 永井 昌(非) | 2 | ○ | ○ | 30 | | | | 2 | | |
| | ユニバーサルデザイン論 | 菊池 直子 | 2 | ○ | ○ | 30 | | 2 | | | | |
| | | 赤澤 真理 | | | | | | | | | | |
| | 建築環境工学Ⅰ | 内田 信平 | 2 | ○ | ○ | 30 | | | 2 | | | |
| | 建築環境工学Ⅱ | 内田 信平 | 2 | ○ | ○ | 30 | | | | 2 | | |
| | 住宅の計画 | 内田 信平 | 2 | ○ | ○ | 30 | | 2 | | | | |
| | 地域の計画 | 三宅 諭(非) | 2 | ○ | ○ | 30 | | 2 | | | | |
| | 建築設備 | 本間 義規(非) | 2 | ○ | ○ | 30 | | | | 2 | | |
| | 建築構造力学 | 松村 光太郎 | 2 | ○ | ○ | 30 | | | | 2 | | |
| | 建築構造力学演習 | 松村 光太郎 | 1 | ○ | ○ | 30 | | | | 2 | | |
| | 住宅の構造 | 松村 光太郎 | 2 | ○ | ○ | 30 | | 2 | | | | |
| | 建築材料 | 松村 光太郎 | 2 | ○ | ○ | 30 | | | 2 | | | |
| | 建築構造・材料実験 | 松村 光太郎 | 1 | ○ | ○ | 30 | | | | 2 | | |
| | 建築構造・材料演習 | 松村 光太郎 | 1 | ○ | ○ | 30 | | | | 2 | | |
| インテリアデザイン論 | 赤澤 真理 | 2 | ○ | ○ | 30 | | 2 | | | | | |
| インテリアデザイン演習 | 赤澤 真理 | 1 | ○ | ○ | 30 | | | | 2 | | | |
| CADⅠ演習 | 内田 信平 | 1 | ○ | ○ | 30 | | 2 | | | | | |
| CADⅡ演習 | 内田 信平 | 1 | ○ | ○ | 30 | | | | 2 | | | |

(注)・「CADⅡ演習」を履修するためには「基礎製図Ⅰ」および「CADⅠ演習」を、「建築環境工学Ⅱ」を履修するためには「建築環境工学Ⅰ」を、「建築構造力学演習」を履修するためには「建築構造力学」を、「インテリアデザイン論」を履修するためには「基礎製図Ⅰ」を、「インテリアデザイン演習」を履修するためには「基礎製図Ⅰ」および「インテリアデザイン論」を、「基礎製図Ⅱ」を履修するためには「基礎製図Ⅰ」を各々履修していることが必要である。

・「ファッション造形実習Ⅱ」を履修するためには「ファッション造形実習Ⅰ」を、「ファッション造形応用演習」を履修するためには「ファッション造形実習Ⅰ」を各々履修していることが必要である。

| 授業科目 | 氏名 | 単位数 | | GPA 対象 | 建築士 | 時間 数 | 週配当時間 | | | | 卒業要件 単位数 | |
|--------|-----------|-------------|----|-----------|-----|---------|-------|----|----|----|-------------|---------------------------|
| | | 必修 | 選択 | | | | 1年 | | 2年 | | | |
| | | | | | | | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | | |
| 専門科目 | 住宅設計演習Ⅰ | 内田信平 | 2 | ○ | ○ | 45 | | | 3 | | | |
| | 住宅設計演習Ⅱ | 内田信平 | 2 | ○ | ○ | 45 | | | | 3 | | |
| | | 赤澤真理 | | | | | | | | | | |
| | 西洋・近代建築史 | 赤澤真理 | 2 | ○ | ○ | 30 | | | 2 | | | |
| | 近代意匠論 | 佐藤恭子 | 2 | | ○ | | 30 | 2 | | | | |
| | 岩手のくらしと工芸 | 生活デザイン専攻全教員 | 2 | | ○ | | 30 | | | 2 | | |
| 小計 | | | 22 | 32 | | | 1020 | 2 | 19 | 27 | 19 | |
| 専門科目合計 | | | 35 | 47 | | | 1500 | 14 | 31 | 27 | 27 | 必修35単位を 含め51単位以上 修得 |

(注)「住宅設計演習Ⅰ」を履修するためには「住宅の計画」および「基礎製図Ⅰ・Ⅱ」を、「住宅設計演習Ⅱ」を履修するためには「住宅設計演習Ⅰ」を各々履修していることが必要である。

■ 卒業要件

《生活科学科生活デザイン専攻》

【参考】建築士受験資格を取得し、卒業するために必要な単位数

| 区分 | 配当 | 卒業要件単位数 | | |
|--------|-----|---------|----|----|
| | 単位数 | 必修 | 選択 | 計 |
| 共通科目 | 61 | 11 | 6 | 17 |
| 基礎専門科目 | 28 | 13 | 10 | 23 |
| 専門科目 | 54 | 22 | 6 | 28 |
| 合計 | 143 | 46 | 22 | 68 |

| 区分 | 卒業要件単位数 | | |
|--------|---------|----|----|
| | 必修 | 選択 | 計 |
| 共通科目 | 11 | 6 | 17 |
| 基礎専門科目 | 14 | 9 | 23 |
| 専門科目 | 50 | 0 | 50 |
| 合計 | 75 | 15 | 90 |

■ 二級建築士及び木造建築士受験資格取得専門科目

| 規程科目及び規程単位数 建築士法第15条第一号から第三号に規定する国土交通大臣の指定する建築に関する科目(指定科目) | 本学における科目名及び単位数 | | | 備考 |
|---|----------------|-----|----|--|
| | 授業科目の名称 | 単位数 | | |
| | | 必修 | 選択 | |
| ①建築設計製図 | 基礎製図Ⅱ | 1 | | 必修・選択の別は、 二級建築士及び木 造建築士の受験資 格を取得する上での 必修・選択の別であ り、卒業要件として の必修・選択の別とは 異なるものであること |
| | 住宅設計演習Ⅰ | 2 | | |
| | 住宅設計演習Ⅱ | 2 | | |
| | CADⅡ演習 | 1 | | |
| ②～④建築計画、建築環境工学 又は建築設備 | 住宅の計画 | 2 | | |
| | 住文化論 | 2 | | |
| | 西洋・近代建築史 | 2 | | |
| | 建築環境工学Ⅰ | 2 | | |
| | 建築環境工学Ⅱ | 2 | | |
| | 建築設備 | 2 | | |
| | 建築構造力学 | 2 | | |
| ⑤～⑦構造力学、建築一般構造 又は建築材料 | 建築構造力学演習 | 1 | | |
| | 住宅の構造 | 2 | | |
| | 建築材料 | 2 | | |
| | 建築構造・材料実験 | 1 | | |
| | 建築構造・材料演習 | 1 | | |
| | 住宅の施工と積算 | 2 | | |
| ⑧建築生産 | 建築法規Ⅰ | 2 | | |
| ⑨建築法規 | 建築法規Ⅱ | 2 | | |
| | 基礎製図Ⅰ | 1 | | |
| ⑩その他 | ユニバーサルデザイン論 | 2 | | |
| | 地域の計画 | 2 | | |
| | CADⅠ演習 | 1 | | |
| | インテリアデザイン論 | 2 | | |
| | インテリアデザイン演習 | 1 | | |
| | ①～⑨の単位数合計 | 33 | | |
| 総単位数(①～⑩の単位数合計) | 42 | | | |

《食物栄養学専攻》

| 授業科目 | 担当教員氏名 (非)=非常勤講師 | 単位数 | | GPA 対象 | 栄養士 必修 | 時間 数 | 週配当時間 | | | | 卒業要件 単位数 | | | |
|---------------------|---------------------|--------------------|--------------|-----------|-----------|---------|-------|----|----|----|-------------|---|---|---|
| | | 必修 | 選択 | | | | 1 | | 2 | | | | | |
| | | | | | | | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | | | | |
| 基礎専門科目 | 生活と経済 | 新田義修(非) | | 2 | ○ | | 30 | | 2 | | | 必修6単位を 含め8単位 以上修得. | | |
| | 人間と社会 | 三須田善暢 | | 2 | ○ | | 30 | | 2 | | | | | |
| | 環境科学 | 相馬優樹 | | 2 | ○ | | 30 | | | | 2 | | | |
| | 食生活論 | 諸岡みどり | 2 | | | ○ | | 30 | 2 | | | | | |
| | 食品有機化学 | 千葉俊之 | 2 | | | ○ | | 30 | 2 | | | | | |
| | 老年学 | 佐々木恒子(非) | | 2 | | ○ | | 30 | | 2 | | | | |
| | 食文化論 (岩手のくらしと食) | 未定 | 2 | | | ○ | | 30 | | | 2 | | | |
| 小計 | | | 6 | 8 | | | 210 | 4 | 6 | 0 | 4 | | | |
| 社会生活と健康 | 社会福祉論 | 佐藤哲郎(非) | | 2 | ○ | ○ | 30 | 2 | | | | 必修34単位を を含め40単位 以上修得. 集中講義 | | |
| | 公衆衛生学Ⅰ | 相馬優樹 | 2 | | | ○ | ○ | 30 | | | 2 | | | |
| | 公衆衛生学Ⅱ | 相馬優樹 | | 2 | | | ○ | ○ | 30 | | | | 2 | |
| | 運動処方論 | 栗林徹(非) | | 2 | | | ○ | | 30 | | | | 2 | |
| | 基礎統計学 | 相馬優樹 | 2 | | | | ○ | ○ | 30 | | 2 | | | |
| | 人体の構造と機能 | 生化学Ⅰ | 川崎雅志 | 2 | | | ○ | ○ | 30 | | 2 | | | |
| | | 生化学Ⅱ | 川崎雅志 | | 2 | | | ○ | ○ | 30 | | | 2 | |
| | | 解剖生理学 | 佐藤匡(非) | 2 | | | | ○ | ○ | 30 | | | 2 | |
| | | 解剖生理学実験 | 川崎雅志 笹田怜子 | | 1 | | | ○ | ○ | 45 | | | | 3 |
| | | 運動生理学 | 栗林徹(非) | 2 | | | | ○ | ○ | 30 | | | | 2 |
| | 健康管理概論 | 立身政信(非) | | 2 | | | | ○ | ○ | 30 | | | | 2 |
| | 食品と衛生 | 食品学Ⅰ | 千葉俊之 | 2 | | | | ○ | ○ | 30 | 2 | | | |
| 食品学Ⅱ | | 長坂慶子 | 2 | | | | ○ | ○ | 30 | | 2 | | | |
| 食品学実験Ⅰ | | 千葉俊之 笹田怜子 | | 1 | | | | ○ | ○ | 45 | | 3 | | |
| 食品学実験Ⅱ (食品加工を含む) | | 千葉俊之 笹田怜子 | | 1 | | | | ○ | ○ | 45 | | | 3 | |
| 食品加工学 | | 千葉俊之 | 2 | | | | ○ | ○ | 30 | | | 2 | | |
| 食品衛生学 | | 相馬優樹 | 2 | | | | ○ | ○ | 30 | 2 | | | | |
| 食品衛生学実験 | | 相馬優樹 笹田怜子 | | 1 | | | | ○ | ○ | 45 | | | 3 | |
| 栄養と健康 | 基礎栄養学 | 川崎雅志 | 2 | | | | ○ | ○ | 30 | 2 | | | | |
| | 応用栄養学 | 加藤哲子 | 2 | | | | ○ | ○ | 30 | 2 | | | | |
| | 栄養学実験 | 川崎雅志 笹田怜子 | | 1 | | | | ○ | ○ | 45 | 3 | | | |
| | 応用栄養学実習 | 加藤哲子 岩本佳恵 | | 1 | | | | ○ | ○ | 45 | | 3 | | |
| | 臨床栄養学Ⅰ | 加藤哲子 | 2 | | | | ○ | ○ | 30 | | 2 | | | |
| | 臨床栄養学Ⅱ (病理学を含む) | 高橋和眞(非) 遠藤龍人(非) | | 2 | | | | ○ | ○ | 30 | | | 2 | |
| | 臨床栄養学実習 | 加藤哲子 岩本佳恵 | | 1 | | | | ○ | ○ | 45 | | | 3 | |

| 授業科目 | 担当教員氏名 (特任)=特任教授 (非)=非常勤講師 | 単位数 | | GPA 対象 | 栄養士 必修 | 時間 数 | 週配当時間 | | | | 卒業要件 単位数 | |
|--------|----------------------------------|--------|----|-----------|-----------|---------|--------------|----|----|----|-------------|---------------------------|
| | | 必修 | 選択 | | | | 1 | | 2 | | | |
| | | | | | | | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | | |
| 栄養の指導 | 公衆栄養学 | 堀内 容子 | 2 | | ○ | ○ | 30 | | | | 2 | |
| | 栄養教育論 | 堀内 容子 | 2 | | ○ | ○ | 30 | | 2 | | | |
| | 栄養指導論 | 堀内 容子 | | 2 | ○ | ○ | 30 | | | 2 | | |
| | 栄養教育・指導実習 | 堀内 容子 | | 1 | ○ | ○ | 45 | | | 3 | | |
| | 栄養情報処理実習 | 堀内 容子 | | 1 | ○ | ○ | 45 | | | | 3 | |
| 給食の運営 | 調理学 | 長坂 慶子 | 2 | | ○ | ○ | 30 | 2 | | | | |
| | 調理学実験 | 長坂 慶子 | | 1 | ○ | ○ | 45 | | 3 | | | |
| | 調理学実習Ⅰ | 諸岡 みどり | | 2 | ○ | ○ | 90 | 3 | 3 | | | |
| | 調理学実習Ⅱ | 長坂 慶子 | | 1 | ○ | ○ | 45 | | | 3 | | |
| | 調理学実習Ⅲ | 長坂 慶子 | | 1 | ○ | ○ | 45 | | | | 3 | |
| | 給食管理論 | 諸岡 みどり | | 2 | ○ | ○ | 30 | | 2 | | | |
| | 給食管理演習 | 諸岡 みどり | | 2 | ○ | ○ | 45 | | | 2 | | |
| | 給食管理実習Ⅰ (学内) | 諸岡 みどり | | 1 | ○ | ○ | 45 | | | 3 | | |
| | 給食管理実習Ⅱ (学外) | 加藤 哲子 | | 2 | ○ | ○ | (90) | | | | 特 | |
| | | 諸岡 みどり | | | | | | | | | | |
| 堀内 容子 | | | | | | | | | | | | |
| 卒業研究 | 食物栄養学専攻教員 | 4 | | | ○ | | 60 | | | 2 | 2 | |
| 小計 | | | 34 | 35 | | | 1470 (90) | 16 | 28 | 29 | 24 | |
| 専門科目合計 | | | 40 | 43 | | | 1680 (90) | 20 | 34 | 29 | 28 | 必修40単位 を含め48単 位以上修得 |

注) ・給食管理実習Ⅱ(学外)を履修するためには、1年及び2年前期までの栄養士免許取得専門科目(必修科目)の単位が修得見込みであること。

・週配当時間中、「特」は、実習施設における校外実習である。

■ 卒業要件

《生活科学科食物栄養学専攻》

【参考】栄養士免許を取得し、卒業するために必要な単位数

| 区分 | 配当 単位数 | 卒業要件単位数 | | |
|--------|-----------|---------|----|----|
| | | 必修 | 選択 | 計 |
| 共通科目 | 61 | 11 | 6 | 17 |
| 基礎専門科目 | 14 | 6 | 2 | 8 |
| 専門科目 | 83 | 34 | 6 | 40 |
| 合計 | 158 | 51 | 14 | 65 |

| 区分 | 卒業要件単位数 | | |
|--------|---------|----|----|
| | 必修 | 選択 | 計 |
| 共通科目 | 11 | 6 | 17 |
| 基礎専門科目 | 6 | 2 | 8 |
| 専門科目 | 34 | 33 | 67 |
| 合計 | 51 | 41 | 92 |

■ 栄養士免許取得専門科目

| 規定科目及び規定単位数 | | | 本学の専門科目及び単位数 | | |
|--------------------|-----------|----------|---------------------|-----------|-----------|
| 授業内容 | 単位数 | | 科目名 | 単位数 | |
| | 講義又は演習 | 実験又は実習 | | 講義又は演習 | 実験又は実習 |
| 社会生活と健康 | 4 | 4 | 社会福祉論 | 2 | |
| | | | 公衆衛生学Ⅰ | 2 | |
| | | | 公衆衛生学Ⅱ | 2 | |
| | | | 運動処方論 | 2 | |
| | | | 基礎統計学 | 2 | |
| | | | 社会生活と健康の小計 | 10 | 0 |
| 人体の構造と機能 | 8 | 4 | 生化学Ⅰ | 2 | |
| | | | 生化学Ⅱ | 2 | |
| | | | 解剖生理学 | 2 | |
| | | | 解剖生理学実験 | | 1 |
| | | | 運動生理学 | 2 | |
| | | | 健康管理概論 | 2 | |
| 人体の構造と機能の小計 | 10 | 1 | | | |
| 食品と衛生 | 6 | 4 | 食品学Ⅰ | 2 | |
| | | | 食品学Ⅱ | 2 | |
| | | | 食品学実験Ⅰ | | 1 |
| | | | 食品学実験Ⅱ(食品加工を含む) | | 1 |
| | | | 食品加工学 | 2 | |
| | | | 食品衛生学 | 2 | |
| 食品衛生学実験 | | 1 | | | |
| 食品と衛生の小計 | 8 | 3 | | | |
| 栄養と健康 | 8 | 4 | 基礎栄養学 | 2 | |
| | | | 応用栄養学 | 2 | |
| | | | 栄養学実験 | | 1 |
| | | | 応用栄養学実習 | | 1 |
| | | | 臨床栄養学Ⅰ | 2 | |
| | | | 臨床栄養学Ⅱ(病理学を含む) | 2 | |
| 臨床栄養学実習 | | 1 | | | |
| 栄養と健康の小計 | 8 | 3 | | | |
| 栄養の指導 | 6 | 10 | 公衆栄養学 | 2 | |
| | | | 栄養教育論 | 2 | |
| | | | 栄養指導論 | 2 | |
| | | | 栄養教育・指導実習 | | 1 |
| | | | 栄養情報処理実習 | | 1 |
| | | | 栄養の指導の小計 | 6 | 2 |
| 給食の運営 | 4 | 10 | 調理学 | 2 | |
| | | | 調理学実験 | | 1 |
| | | | 調理学実習Ⅰ | | 2 |
| | | | 調理学実習Ⅱ | | 1 |
| | | | 調理学実習Ⅲ | | 1 |
| | | | 給食管理論 | 2 | |
| | | | 給食管理演習 | 2 | |
| | | | 給食管理実習Ⅰ | | 1 |
| 給食管理実習Ⅱ | | 2 | | | |
| 給食の運営の小計 | 6 | 8 | | | |
| | 36 | 14 | 小計 | 48 | 17 |
| | 50 | | 合計 | 65 | |
| | | | 栄養士免許に必要な単位数 | 63 | |

2 国際文化学科

(平成29年度以前の入学生は、担当教員の一部変更を除き、入学年度に配布された授業科目一覧表が適用されます。)

■ 基盤科目

| 授業科目 | 担当教員氏名 (非)=非常勤講師 | 単位数 | | GPA 対象 | 時間 数 | 週配当時間 | | | | 卒業要件 単位数 |
|------------------|---------------------|----------------------|----|-----------|---------|-------|----|----|----|--------------------------|
| | | 必修 | 選択 | | | 1年 | | 2年 | | |
| | | | | | | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | |
| 教養科目 | 文学の世界 | 須藤 宏明 (非) | 2 | ○ | 30 | 2 | | | | 必修2単位を 含め10単位 以上修得 |
| | 数理の世界 | 村木 尚文 (非) | 2 | ○ | 30 | | 2 | | | |
| | 生活と経済 | 新田 義修 (非) | 2 | ○ | 30 | | 2 | | | |
| | 人間と社会 | 三須 田 善 暢 | 2 | ○ | 30 | | 2 | | | |
| | 生活と法 | 吉 原 秋 | 2 | ○ | 30 | | | 2 | | |
| | 地理学入門 | 吉木 岳哉 (非) | 2 | ○ | 30 | | 2 | | | |
| | 心理の世界 | 桐 田 隆 博 (非) | 2 | ○ | 30 | | | 2 | | |
| | 哲学の世界 | 井 澤 清 一 | 2 | ○ | 30 | 2 | | | | |
| | 社会福祉論 | 吉 田 仁 美 (非) | 2 | ○ | 30 | | | 2 | | |
| | 情報処理入門 | 樽 松 理 樹 (非) | 2 | ○ | 30 | 2 | | | | |
| 体育実技 | 井 上 一 彦 (非) | 1 | ○ | 30 | | 2 | | | | |
| 小計 | | 2 | 19 | | 330 | 6 | 10 | 6 | 0 | |
| キャリア 科目 デザ | キャリアデザインⅠ | 高瀬 和実 (非) 盛岡短大部教員 | 1 | | 30 | 2 | | | | 必修2単位を 得 |
| | キャリアデザインⅡ | 高瀬 和実 (非) 盛岡短大部教員 | 1 | | 30 | | 2 | | | |
| | 小計 | 2 | 0 | | 60 | 2 | 2 | 0 | 0 | |
| 基盤科目合計 | | 4 | 19 | | 390 | 8 | 12 | 6 | 0 | 必修4単位 を含め12単位 以上修得 |

■ 専門科目

| 授業科目 | 担当教員氏名 (非)=非常勤講師 | 単位数 | | GPA 対象 | 時間 数 | 週配当時間 | | | | 卒業要件 単位数 | |
|----------------|---------------------|-------------------|----|-----------|---------|-------|----|----|----|---------------------------|--|
| | | 必修 | 選択 | | | 1年 | | 2年 | | | |
| | | | | | | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | | |
| 基礎 専門 科目 | 文化人類学 | 原 英 子 | 2 | ○ | 30 | 2 | | | | 必修22単位を 含め28単位 以上修得 | |
| | 現代女性論 | 熊 本 早 苗 | 2 | ○ | 30 | 2 | | | | | |
| | 近代社会論 | 小 林 一 穂 (非) | 2 | ○ | 30 | | 2 | | | | |
| | 多文化共生論 | 吉 原 秋 | 2 | ○ | 30 | | 2 | | | | |
| | コミュニケーション論 | Quinlan Faris (非) | 2 | ○ | 30 | | | 2 | | | |
| | 基礎演習Ⅰ | 国際文化学科教員 | 2 | ○ | 30 | 2 | | | | | |
| | 基礎演習Ⅱ | 国際文化学科教員 | 2 | ○ | 30 | | 2 | | | | |
| | 日本語表現Ⅰ | 松 本 博 明 | 2 | | ○ | 30 | | 2 | | | |
| | | 塩 谷 昌 弘 (非) | | | | | | | | | |
| | 日本語表現Ⅱ | 石 田 洵 (非) | 2 | | ○ | 30 | | | 2 | | |
| | | 河 邊 邦 博 (非) | | | | | | | | | |
| | 国際文化理解演習Ⅰ | 国際文化学科教員 | 2 | ○ | 30 | 2 | | | | | |
| | 国際文化理解演習Ⅱ | 国際文化学科教員 | 2 | ○ | 30 | | 2 | | | | |
| | 総合英語Ⅰ-A | Quinlan Faris (非) | 2 | | ○ | 30 | 2 | | | | |
| | | Patrick Maher | | | | | | | | | |
| | 総合英語Ⅰ-B | 井 澤 清 一 | 2 | | ○ | 30 | 2 | | | | |
| | | 熊 本 早 苗 | | | | | | | | | |
| | 総合英語Ⅱ-A | Quinlan Faris (非) | 2 | | ○ | 30 | | 2 | | | |
| | | Patrick Maher | | | | | | | | | |
| | 総合英語Ⅱ-B | 井 澤 清 一 | 2 | | ○ | 30 | | 2 | | | |
| 熊 本 早 苗 | | | | | | | | | | | |
| 総合英語Ⅲ-A | J. Angerhofer (非) | 2 | | ○ | 30 | | | 2 | | | |
| | Patrick Maher | | | | | | | | | | |
| 総合英語Ⅲ-B | 井 澤 清 一 | 2 | | ○ | 30 | | | 2 | | | |
| | 多 賀 谷 真 吾 (非) | | | | | | | | | | |
| 総合英語Ⅳ-A | J. Angerhofer (非) | 2 | | ○ | 30 | | | | 2 | | |
| | Patrick Maher | | | | | | | | | | |
| 総合英語Ⅳ-B | 井 澤 清 一 | 2 | | ○ | 30 | | | | 2 | | |
| | 熊 本 早 苗 | | | | | | | | | | |
| 小計 | | 22 | 16 | | 570 | 12 | 14 | 8 | 4 | | |

| 授業科目 | | 担当教員氏名 (非) = 非常勤講師 | 単位数 | | GPA 対象 | 時間 数 | 週配当時間 | | | | 卒業要件 単位数 |
|----------|-----------------|-----------------------|---------|----|-----------|---------|-------|----|----|----|---|
| | | | 必修 | 選択 | | | 1年 | | 2年 | | |
| | | | | | | | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | |
| 専門共通 | 中国語・中国文化Ⅰ | 劉文靜(非) | | 2 | ○ | 30 | 2 | | 2 | | 必修2単位を 含め24単位 以上修得 集中講義 |
| | 中国語・中国文化Ⅱ | 劉文靜(非) | | 2 | ○ | 30 | | 2 | | 2 | |
| | ハンブルク・韓国文化Ⅰ | 姜奉植(非) | | 2 | ○ | 30 | 2 | | 2 | | |
| | ハンブルク・韓国文化Ⅱ | 姜奉植(非) | | 2 | ○ | 30 | | 2 | | 2 | |
| | スペイン語・スペイン語圏文化Ⅰ | 三宅禎子(非) | | 2 | ○ | 30 | 2 | | 2 | | |
| | スペイン語・スペイン語圏文化Ⅱ | 三宅禎子(非) | | 2 | ○ | 30 | | 2 | | 2 | |
| | ドイツ語・ドイツ文化Ⅰ | Uwe Richter(非) | | 2 | ○ | 30 | 2 | | 2 | | |
| | ドイツ語・ドイツ文化Ⅱ | Uwe Richter(非) | | 2 | ○ | 30 | | 2 | | 2 | |
| | フランス語・フランス文化Ⅰ | 熊本哲也(非) | | 2 | ○ | 30 | 2 | | 2 | | |
| | フランス語・フランス文化Ⅱ | 熊本哲也(非) | | 2 | ○ | 30 | | 2 | | 2 | |
| | ロシア語・ロシア文化Ⅰ | コロボフドミトリ(非) | | 2 | ○ | 30 | 2 | | 2 | | |
| | ロシア語・ロシア文化Ⅱ | 黒岩幸子(非) | | 2 | ○ | 30 | | 2 | | 2 | |
| | アジア文化理解論 | 中尾美知子(非) | | 2 | ○ | 30 | 2 | | | | |
| | 西洋文化理解論 | Patrick Maher | | 2 | ○ | 30 | 2 | | | | |
| | 国際関係論 | 照井悦幸(非) | | 2 | ○ | 30 | | 2 | | | |
| | 国際経済論 | 菊池孝美(非) | | 2 | ○ | 30 | | | 2 | | |
| | 日本国憲法 | 吉原秋 | | 2 | ○ | 30 | | | | 2 | |
| | 文化交流史 | Patrick Maher | | 2 | ○ | 30 | | 2 | | | |
| | 比較文化研究法 | 原英子 | | 2 | ○ | 30 | | | 2 | | |
| 比較文化演習 | 原英子 | | 2 | ○ | 30 | | | | 2 | | |
| 西洋文化 | 西洋の歴史 | 梶さやか(非) | | 2 | ○ | 30 | 2 | | | | 「西洋の文化と 思想A」又は「西 洋の文化と思想 B」のいずれか から2単位以上 修得すること。 |
| | 西洋の文化と思想A | 石橋敬太郎 | | 2 | ○ | 30 | 2 | | | | |
| | 西洋の文化と思想B | 熊本早苗 | | 2 | ○ | 30 | | 2 | | | |
| | 西洋文化研究法A | 石橋敬太郎 | | 2 | ○ | 30 | | | 2 | | |
| | 西洋文化研究法B | 熊本早苗 | | 2 | ○ | 30 | | | 2 | | |
| | 西洋文化演習A | 石橋敬太郎 | | 2 | ○ | 30 | | | | 2 | |
| | 西洋文化演習B | 熊本早苗 | | 2 | ○ | 30 | | | | 2 | |
| | 西洋社会論 | 吉原秋 | | 2 | ○ | 30 | | | 2 | | |
| | 西洋社会論演習 | Patrick Maher 熊本早苗 | | 2 | ○ | 30 | | | | 2 | |
| アジア文化 | アジアの歴史 | 高野淳一 | | 2 | ○ | 30 | 2 | | | | 「アジアの文化と 思想A」又は「ア ジアの文化と思 想B」のいずれ かから2単位以 上修得すること。 |
| | アジアの文化と思想A | 原英子 | | 2 | ○ | 30 | 2 | | | | |
| | アジアの文化と思想B | 高野淳一 | | 2 | ○ | 30 | | 2 | | | |
| | アジア文化研究法 | 高野淳一 | | 2 | ○ | 30 | | | 2 | | |
| | アジア文化演習 | 高野淳一 | | 2 | ○ | 30 | | | | 2 | |
| | アジア社会論 | 高野淳一 | | 2 | ○ | 30 | | | 2 | | |
| アジア社会論演習 | 原英子 | | 2 | ○ | 30 | | | | 2 | | |
| 日本文化 | 日本文化 | 日本の歴史 | 誉田慶信(非) | | 2 | ○ | 30 | 2 | | | 「日本の文化と 思想A」又は「日 本の文化と思想 B」のいずれか から2単位以上 修得すること。 |
| | | 日本の文化と思想A | 松本博明 | | 2 | ○ | 30 | 2 | | | |
| | | 日本の文化と思想B | 三須田善暢 | | 2 | ○ | 30 | | 2 | | |
| | | 伝承文化論 | 松本博明 | | 2 | ○ | 30 | | | 2 | |
| | | 日本文化研究法 | 松本博明 | | 2 | ○ | 30 | | | 2 | |
| 日本文化演習 | 松本博明 | | 2 | ○ | 30 | | | | 2 | | |

| 授業科目 | | | 担当教員氏名 (非) = 非常勤講師 | 単位数 | | GPA 対象 | 時間 数 | 週配当時間 | | | | 卒業要件 単位数 | |
|---------|--------------|-----------|-----------------------|-----------|----|-----------|---------|-------|----|----|----|-------------|---------------------------|
| | | | | 必修 | 選択 | | | 1年 | | 2年 | | | |
| | | | | | | | | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | | |
| 専門科目 | 日本文化 | 地域文化 | 地域の歴史と社会 | 八木 光則 (非) | | 2 | ○ | 30 | 2 | | | | |
| | | | 社会調査法 | 三須田 善暢 | | 2 | ○ | 30 | | | 2 | | |
| | | | 地域文化研究法 | 誉田 慶信 (非) | | 2 | ○ | 30 | | | 2 | | |
| | | | 地域文化演習 | 誉田 慶信 (非) | | 2 | ○ | 30 | | | | 2 | |
| | | | 地域文化理解演習Ⅰ | 松本 博明 | | 2 | ○ | 30 | | | 2 | | |
| | | | | 三須田 善暢 | | | | | | | | | |
| | | | 地域文化理解演習Ⅱ | 松本 博明 | | 2 | ○ | 30 | | | | | 2 |
| | | | | 三須田 善暢 | | | | | | | | | |
| | 郷土の文学 | 高橋 俊和 (非) | | 2 | ○ | 30 | | | 2 | | | | |
| 地域社会論演習 | 三須田 善暢 | | 2 | ○ | 30 | | | | | 2 | | | |
| 卒業研究 | 国際文化学科全教員 | 2 | | ○ | 30 | | | | | 2 | | | |
| 小計 | | | | | 2 | 100 | | 1530 | 30 | 22 | 36 | 38 | |
| 実践科目 | 通訳・翻訳法 | | Patrick Maher | | 2 | ○ | 30 | 2 | | | | | |
| | 検定英語演習 | | 小川 修平 (非) | | 2 | ○ | 30 | | 2 | | | 2 | |
| | ビジネス英語 | | Patrick Maher | | 2 | ○ | 30 | | | 2 | | | |
| | 情報処理演習A(応用Ⅰ) | | 片町 健太郎 (非) | | 2 | ○ | 30 | | 2 | | | | |
| | 情報処理演習B(応用Ⅱ) | | 山田 敬三 (非) | | 2 | ○ | 30 | | 2 | | | | |
| | ビジネス実務演習 | | 田原 美晴 (非) | | 2 | ○ | 30 | | 2 | | | | |
| 小計 | | | | | 0 | 12 | | 180 | 2 | 8 | 2 | 2 | |
| 専門科目合計 | | | | | 24 | 128 | | 2280 | 44 | 44 | 46 | 44 | 必修24単位 を含め56単 位以上修得 |

(注) 外国語科目のいずれかのⅡを履修するためには、その外国語科目のⅠを履修していることが必要である。

また、「キャリアデザイン」「基礎演習」、「国際文化理解演習」、「地域文化理解演習」、「日本語表現」についても、Ⅱを履修するためにはⅠを履修していることが必要である。

■ 卒業要件

| 区分 | | 配当 | 卒業要件単位数 | | |
|--------|------------|-----|---------|----|----|
| | | 単位数 | 必修 | 選択 | 計 |
| 基盤科目 | 教養科目 | 21 | 2 | 8 | 10 |
| | キャリアデザイン科目 | 2 | 2 | | 2 |
| 基礎専門科目 | | 38 | 22 | 6 | 28 |
| 専門科目 | | 102 | 2 | 22 | 24 |
| 実践科目 | | 12 | | 4 | 4 |
| 合計 | | 175 | 28 | 40 | 68 |

IV 履修登録下書き表

履修登録下書き表【記入例】

◆基本的な時間割の組み方◆

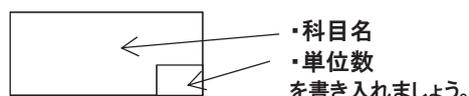
授業科目一覧表で自分の年次に開講される科目を確認し、時間割を見ながら次の手順に従って時間割を埋めていきます。科目選択の際は、必ずシラバスに目を通し授業内容を確認してください。

手順①必修科目を入れます。

手順②空いているところに選択科目を入れます。

※卒業要件単位数や各自が目指す資格取得に必要な科目を十分に確認してください。

1 年 生 前 期



| | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 |
|---------------|------------------------|-----------------------|------------------------|------------------------|------------------------|
| 1時限 | | | | 手順② アジアの文化と思想A 2 | |
| 2時限 | 手順② アジア文化理解論 2 | 手順② 日本の歴史 2 | | 手順① 情報処理入門 2 | 手順② 中国語・中国文化 I 2 |
| 3時限 | 手順① 総合英語 I - A 2 | | 手順① 基礎演習 I 2 | | 手順① 総合英語 I - B 2 |
| 4時限 | 手順② 文学の世界 2 | 手順② 日本の文化と思想A 2 | 手順① キャリアデザイン I 1 | 手順② 国際文化理解演習 I 2 | 手順② 現代女性論 2 |
| 5時限 | | | 手順① キャリアデザイン I - | 手順② アジアの歴史 2 | |
| 集中講義・ 実習など | | | | | |
| | | | | | |

| 合計単位数 |
|-------|
| 27 単位 |

時間割を全て組み終えたら、履修登録をしましょう！

履修登録下書き表

年生 期

| |
|--|
| |
|--|

・科目名
・単位数
を書き入れましょう。

| | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 |
|-----|---|---|---|---|---|
| 1時限 | | | | | |
| 2時限 | | | | | |
| 3時限 | | | | | |
| 4時限 | | | | | |
| 5時限 | | | | | |

| 集中講義・ 実習など | | | | | |
|---------------|--|--|--|--|--|
| | | | | | |

シラバス検索画面
QRコード



Web学生便覧
QRコード



| 合計単位数 |
|-------|
| 単位 |

履修登録下書き表

年生 期

| |
|--|
| |
|--|

・科目名
・単位数
を書き入れましょう。

| | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 |
|-----|---|---|---|---|---|
| 1時限 | | | | | |
| 2時限 | | | | | |
| 3時限 | | | | | |
| 4時限 | | | | | |
| 5時限 | | | | | |

| 集中講義・ 実習など | | | | | |
|---------------|--|--|--|--|--|
| | | | | | |

シラバス検索画面
QRコード



Web学生便覧
QRコード



| 合計単位数 |
|-------|
| 単位 |

履修登録下書き表

年生 期

| |
|--|
| |
|--|

・科目名
・単位数
を書き入れましょう。

| | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 |
|-----|---|---|---|---|---|
| 1時限 | | | | | |
| 2時限 | | | | | |
| 3時限 | | | | | |
| 4時限 | | | | | |
| 5時限 | | | | | |

| 集中講義・ 実習など | | | | | |
|---------------|--|--|--|--|--|
| | | | | | |

シラバス検索画面
QRコード



Web学生便覧
QRコード



| 合計単位数 |
|-------|
| 単位 |

履修登録下書き表

年生 期

| |
|--|
| |
|--|

・科目名
・単位数
を書き入れましょう。

| | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 |
|-----|---|---|---|---|---|
| 1時限 | | | | | |
| 2時限 | | | | | |
| 3時限 | | | | | |
| 4時限 | | | | | |
| 5時限 | | | | | |

| 集中講義・ 実習など | | | | | |
|---------------|--|--|--|--|--|
| | | | | | |

シラバス検索画面
QRコード



Web学生便覧
QRコード



| 合計単位数 |
|-------|
| 単位 |



岩手県立大学

岩手県立大学盛岡短期大学部

〒020-0693 岩手県滝沢市巢子152-52

TEL 019-694-2000(代) FAX 019-694-2001(代)

ホームページアドレス <http://www.iwate-pu.ac.jp>